

シラバス（授業概要）
2024 年度

2024 年度

シラバス（授業概要）											2024年度						
授業科目名		コミュニケーションサポートⅡ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		宮城島 進一															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技				2		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		・ 集団行動や活動を通して、集団内での行動のあり方について学ぶ。 コミュニケーション力を高める。・ コ															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業内容・ 授業計画		時間数		内容概略								わかる目標・できる目標					
		1～2		始業式、								① 式でのふさわしいマナーが身に付く ② マナーに関して理解が深まる ③ 異文化理解が深まる ④ 日本文化への理解が深まる ⑤ コミュニケーション能力が身に付く ⑥ クラス以外の人との交流が深まる					
		3～4		マナーコンテスト													
		5～6		前期終業式													
		7～10		後期始業式、防災訓練													
		11～12		ランゲージデイ													
		13～15		校外文化研修準備													
		16～25		校外文化研修													
		26		校外文化研修振り返り													
		27		終業式													
		28～29		ニューイヤーセミナー、 始業式													
		30		終業式													
成績評価方法		出席点															
使用テキスト ／教材		無し															
関連科目		コミュニケーションサポートⅠ、コミュニケーションサポートⅡ															
その他																	

2025 年度

授業科目名		パソコン演習Ⅰ													
学科・コース		国際交流科													
担当教員		松川 麻美													
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
実習				2		通年		必修		60		2			
授業目的 到達目標		基本的なPC操作の知識とスキルの習得を目指します。日本語タイピング入力、Excelで計算やグラフの入った表作成、Wordでさまざまなビジネス文書作成を習得していきます。													
授業手法		・対面		○		・遠隔		○		・対面/遠隔		○		・オンデマンド	
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		○		反転授業				調査授業		○		フィールドワーク		
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他		
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略						わかる目標・できる目標						
	1～2		パソコンや入力操作の基本 日本語タイピング						① パソコンの基本操作が理解できる ② データの管理方法が理解できる ③ スムーズに日本語入力ができる ④ メールやWebコミュニケーション について理解できる ⑤ 情報モラルや情報セキュリティ について理解できる ⑥ Excelの概要と基本操作ができる ⑦ さまざまな機能や数式を理解できる ⑧ Wordの概要と基本操作ができる ⑨ さまざまなビジネス文書を作成できる ⑩ 日本語でのタイピング速度が速くなる ⑪ 表計算検定試験を受験できる ⑫ 日本語ワープロ検定試験を受験できる						
	3～6		Windows基本操作 メールとTeamsの利用												
	7～8		情報モラルと情報セキュリティ												
	9～12		Excel演習 Excelの基本												
	13～16		Excel演習 表の作成と編集												
	17～20		Excel演習 数式と参照												
	21～30		Excel演習 課題												
	31～32		Word演習 基本操作、書式設定												
	33～36		Word演習 ビジネス文書作成												
	37～40		Word演習 表の作成と編集												
	41～48		表計算検定模擬練習												
	49～50		表計算検定試験												
	51～59		日本語ワープロ検定模擬練習												
	59～60		日本語ワープロ検定試験												
成績評価方法		【前】課題（80％）、出席率（10％）、態度・姿勢（10％） 【後】検定（40％）、模擬（40％）、出席率（10％）、態度・姿勢（10％）													
使用テキスト ／教材		留学生のためのかんたんWord/Excel/PowerPoint 入門（技術評論社） 日本語ワープロ検定試験問題集・情報処理検定試験 表計算問題集													
関連科目		パソコン演習Ⅱ													
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。													

2025 年度

授業科目名		キャリアサポートⅡ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		山崎 弘															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		2		通年		必修		60		2					
授業目的 到達目標		個々の価値観を実現するキャリア形成をスタートする。労働の意義と職業観を確立し、日本国内における就労許可を獲得するための就活を2月に具体化できる。															
授業手法		・対面				・遠隔				・対面/遠隔		○		・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業		○		フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1 ～ 4		日本における就労資格と日本の新卒採用								① 日本社会の新卒採用制度を理解する						
	5 ～ 8		日本企業と労働者、企業の求める人材の理解								② 求める人材像を理解する						
	9 ～ 12		就職活動のプロセス理解と、支援サイトの利用								③ 就活のプロセスを理解する						
	13 ～ 16		社会保険制度を理解する								④ 社会保険制度と福利厚生を理解する						
	17 ～ 20		日本企業の福利厚生制度を知る								⑤ VISAに適合する職種の絞り込み						
	21 ～ 24		職種と業界、VISAと適合職種を理解する								⑥ 自己分析 自己の強み語句を決める						
	25 ～ 28		自己分析と強み語句の理解								⑦ 志望動機と3年後の姿を確立する						
	29 ～ 32		自己の価値観と労働の種類								⑧ 具体的な企業研究をする						
	33 ～ 36		日本企業の研究①								⑨ 履歴書の準備ができる						
	37 ～ 40		日本企業の研究②								⑩ 履歴書を完成させる						
	41 ～ 44		履歴書の書き方と準備								⑪ 履歴書の制度をあげる						
	45 ～ 48		履歴書を書く								⑫ 作文の演習を行い添削を受ける						
49 ～ 52		自己PR作文の演習								⑬ 実践的なアプローチを行う							
53 ～ 56		志望動機作文の演習															
57 ～ 60		実践的な就活を開始する															
成績評価方法		【前】・前期筆記試験(30%)、前期課題(30%)、出席率(40%) 【後】・後期課題(50%)、出席率(50%)															
使用テキスト ／教材		①キャリアデザインノート ②配布資料 ③PPTシート (オリジナルテキスト) (授業時配布) (授業時配布)															
関連科目		キャリアサポートⅠ、キャリアサポートⅡ															
その他																	

2025 年度

授業科目名		サービスマネジメントⅠ												
学科・コース		国際交流科												
担当教員		齋藤 悦子												
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位		
講義		・ 演習		2		通年		必修		60		4		
授業目的 到達目標		サービス接遇検定試験3級の勉強を通して、日本の一般常識、社会常識を学び、サービスマインドを身につけます。 日本での就職に向け、対人スキルを体得し、本格化する就職活動に向け準備を進めていきます。												
授業手法		・ 対面		○	・ 遠隔			・ 対面/遠隔			・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		○	反転授業			調査授業			フィールドワーク				
	双方向アンケート			ペアワーク			グループワーク		○	ロールプレイ			○	
	プレゼンテーション			PBL			模擬授業			その他				
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略							わかる目標・できる目標					
	1～2	マナーの基礎知識・マナーブックの復習							① S-AIRのマナーを身につける。 ② スーツ着用時、清潔感や爽やかさのある身だしなみを整えることができる。 ③ サービススタッフとして愛想、愛嬌の大切さを理解する。 ④ 接遇用語を理解し、使えるようになる。 ⑤ サービス業に関わる年中行事、商業用語、経済用語を理解する。 ⑥ 慣用表現、カタカナ用語を理解する。 ⑦ 挨拶やお辞儀の仕方を中心とする一般的なマナー、礼儀作法を心得ることができる。 ⑧ 状況に合わせて適切な敬語を使えるようになる。 ⑨ 話し方によって気配り、気遣いを表現できるようになる。 ⑩ 面接で自己表現できるようになる。					
	3～8	サービススタッフの資質												
	9～14	専門知識												
	15～20	一般知識												
	21～26	対人技能												
	27～32	実務技能												
	33～34	前期末テスト												
	35～40	ロールプレイング試験対策												
	41～46	検定対策												
	47～60	就職試験準備（模擬面接）												
成績評価方法	[前]・出欠席（30%）・平常点（マナー・提出物）（30%）・学期末試験（40%） [後]・出欠席（30%）・平常点（マナー・提出物）（30%）・検定試験結果（40%）													
使用テキスト／教材	サービス接遇検定公式テキスト3級・サービス接遇検定実問題集3級（早稲田教育出版）マナーブック													
関連科目	サービスマネジメントⅡ													
その他	身だしなみを整えて受講すること。※実務経験のある教員が担当する科目である。													

2025 年度

授業科目名		TOEIC I																
学科・コース		国際交流科																
担当教員		田中 彰子																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
演習		・ 講義		2		通年		必修		60		2						
授業目的 到達目標		・ TOEICテストで600点以上を取る。																
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド				
アクティブ ラーニング	事前学習型授業						反転授業						調査授業				フィールドワーク	
	双方向アンケート						ペアワーク						グループワーク				ロールプレイ	
	プレゼンテーション						PBL						模擬授業				その他	
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標								
	1～2	自己紹介、テキスト紹介、授業の進め方								① TOEICによく出る英単語を覚える ② 同義語を考える ③ 英文法を理解する ④ 文章をすばやく読む力をつける ⑤ 質問の意図を理解する ⑥ 推測する力を養う ⑦ 時間管理ができる ⑧ 正しい発音を身につける								
	3～12	単語テスト																
	13～20	単語本の短文を聞いてリピートする																
	21～40	リーディングテストを解く																
	41～60	リスニングテストを解く																
成績評価方法		IPテスト結果（50％）、授業への取り組み（30％）、出席率（20％）																
使用テキスト ／教材		『TOEICテスト新形式精選模試リスニング2』 『TOEICテスト新形式精選模試リーディング2』 『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』																
関連科目		TOEIC II																
その他		コツコツ頑張って、スコアアップを目指しましょう！																

2025 年度

授業科目名		面接対策															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		安森 亜寿香															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・実習		2		通年		必修		60		2					
授業目的 到達目標		面接に必要なとなる準備や対策を行い、面接の際に自分を表現できるようになる。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク				
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ		○		
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～5	学生時代に力を入れたこと								① 就職活動に必要な準備がわかる ② エントリーシートが書ける ③ 面接時のマナーがわかる ④ 面接で聞かれる質問への準備ができる ⑤ 自己PRが書ける ⑥ 自分の魅力を伝えることができる							
	6～15	自己PR															
	16～25	志望動機															
	26～30	マナー（印象、服装、会話、電話）															
	31～45	面接で聞かれる質問への準備															
	46～60	模擬面接															
成績評価方法		授業への取り組み60% 課題の提出30% 出席率10%															
使用テキスト ／教材		『留学生のための就職内定ワークブック』															
関連科目																	
その他		準備と練習をたくさん行って、自信を持って面接に臨めるようにしましょう。															

2025 年度

授業科目名		ビジネス言語演習Ⅱ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		今野 政江															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		2		通年		必修		300		10					
授業目的 到達目標		日本語能力試験N1の取得を目指す。仕事の場面で円滑に業務ができる日本語力を付ける。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～90	語彙力の向上								① 語彙力がつき、正しく運用できる ② 文法の意味を理解し、正しく運用できる ③ 時間を意識して読解文を読む力がつく ④ 時間を意識して読解の設問を解く力がつく ⑤ 日本語のニュース記事が読める ⑥ ニュース記事の概要が説明できる ⑦ 自分の意見・考えを発話する力がつく							
	91～180	文法形式の意味と用法															
	181～211	読解：評論、解説、エッセイ等の文章問題を解く															
	212～242	読解：広告、お知らせ、説明書き等の問題を解く															
	243～270	読解：実戦問題演習															
	271～283	語彙・文法：実戦問題演習															
	284～288	ニュース発表・スピーチ															
	289～294	模擬試験・解説															
	295～300	期末試験・解説															
成績評価方法	期末試験（70％） 授業への取り組み（20％） 出席率（10％）																
使用テキスト ／教材	語彙・文法：『新完全マスター』スリーエーネットワーク 読解：【前期】必修パターン読解																
関連科目	ビジネス言語演習Ⅰ、ビジネス言語演習Ⅲ																
その他	授業で学習した内容を定着させるために、宿題と復習は必ずやってくることを。																

シラバス（授業概要）											2025 年度				
授業科目名		航空知識Ⅰ													
学科・コース		国際交流科													
担当教員		今井 美佳													
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
講義				2		通年		必修		30		2			
授業目的 到達目標		航空業界における様々な仕事を理解し、必須知識である専門用語やレターコードの習得を目標とします。													
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔					
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業					
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業					
												フィールドワーク			
												ロールプレイ			
												その他			
		時間数		内容概略						わかる目標・できる目標					
		1～2		DVD鑑賞資料を用いてのグループワーク											
		3～4		日本及び外国主要航空会社コード						① 国内外主要航空会社コードを理解できる					
		5～8		アライアンス及び共同運航						② 国内外主要空港コードを理解できる					
		9～10		日本及び海外主要空港コード						③ アルファベットコードを理解し 様々な単語をコードに変換し表現できる					
		11～12		マルチプルエアポート、アルファベットコード						④ 基本的な専門用語を理解できる					
		13～14		専門用語						⑤ 基本的な危険物知識を理解できる					
		15～16		前期試験						⑥ 国際線における100mlルールを理解できる					
		17～20		世界の旅客機とメーカー、シートマップ						⑦ アライアンスをグループ分けできる					
		21～22		航空機について						⑧ 出入国知識、CIQ各分野の役割を理解できる					
		23～24		基本的な危険物及び手荷物ルール											
		25～26		出入国知識（旅券・査証・CIQ）											
		27～28		総復習											
		29～30		後期試験											
成績評価方法		出欠席（20％）、授業態度（20％）、前期試験（30％）、後期試験（30％）													
使用テキスト／教材		・航空知識テキスト ・講師作成資料 ・夢のお仕事シリーズDVD													
関連科目		航空知識Ⅱ													
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。													

2025 年度

授業科目名		グランドハンドリング概論															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		望月 照夫															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義		・演習		2		通年		必修		30		2					
授業目的 到達目標		航空機の到着から次のフライトまでに、機側で行われる様々な準備業務について正しく理解し、グランドハンドリング業務のは幅広い知識を身につけることを目標とします。また、16時間は中部スカイサポート（株）との連携授業です。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他		○	
授業内容・授業計画	時間数		内容概略										わかる目標・できる目標				
	1～2		グランドハンドリングとは・空港の施設と名称										① グランドハンドリングの概要の理解 ② 機側作業のフローチャートを描ける ③ GSEの機能を説明できる ④ ULDの種類と搭載可能な機体の理解 ⑤ ロードシートが読めること ⑥ 航空貨物の種類と取扱いを理解する				
	3～4		ステイタイムと機側作業														
	5～8		中部スカイサポート連携授業（誘導業務実習）														
	9～10		GSEの種類と役割														
	11～14		中部スカイサポート連携授業（空港見学）														
	15～16		ULDの搭降載														
	17～18		前期評価試験														
	19～22		中部スカイサポート連携授業（ソーティング作業）														
	23～24		航空貨物と必要な書類														
	25～28		中部スカイサポート連携授業（タイダウン実習）														
	29～30		後期評価試験														
成績評価方法		【前期】評価試験60%・出席率20%・授業態度20% 【後期】評価試験60%（うち連携企業評価50%）・出席率20%・授業態度20%															
使用テキスト／教材		航空機のグランドハンドリング（日本航空技術協会）・自作プリント															
関連科目		旅客実習Ⅱ															
その他		グランドハンドリングに興味を持ち、その仕事に就職できるよう期待します。															

2025 年度

授業科目名		TIM基礎															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		今井 美佳															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義		・ 演習		2		後期		必修		30		2					
授業目的 到達目標		国際線の搭乗手続き時に必須である、各国の旅券・査証・入国の際の規則についての英文をTIM(Travel Information Manual)を用いて読み取る基礎力を身につけることを目指します。															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク				
	双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ				
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～2	海外渡航における旅券、査証、TIMの重要性								① TIMの重要性、電子渡航認証を理解できる。 ② 授業で取り上げた各国の空港コードを理解できる。 ③ 入国時における旅券の必要残存期限を計算することができる。 ④ 授業で取り上げた各国の査証の有無を理解できる。 ⑤ 入国時における無査証での滞在可能期限を計算することができる。 ⑥ 英文でのTIMATICの文面に慣れ、重要な箇所を見つけることができる。 ⑦ あらゆる旅程からTIMATICを見て搭乗手続の可否を判断できる。							
	3～4	電子渡航認証について															
	5～6	日本国籍：シンガポール行きTIM内容															
	7～8	日本国籍：台湾行きTIM内容															
	9～10	日本国籍：韓国行きTIM内容															
	11～12	日本国籍：中国行きTIM内容															
	13～14	日本国籍：オーストリア行きTIM内容															
	15～18	無査証滞在可能期限の計算 基礎															
	19～20	小テスト															
	21～24	無査証滞在可能期限の計算 応用															
	25～28	演習、総復習															
	29～30	後期試験															
成績評価方法		後期期末本試験60%、小テスト30%、出席率及び授業態度10%															
使用テキスト／教材		講師作成資料															
関連科目																	
その他		※実務経験がある教員が担当する科目である。 電子辞書、電卓を持参すること。 小テストは1回のみの実施の為、欠席の場合は課題提出にて評価とする。															

2025 年度

授業科目名		エアライン筆記対策												
学科・コース		国際交流科												
担当教員		山崎 弘												
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位		
講義		・ 演習		2		通年		必修		60		4		
授業目的 到達目標		不得意とする非言語分野の学力向上をし、採用試験（SPI）で成果を出すことを目標とします。												
授業手法		・ 対面		・ 遠隔		・ 対面/遠隔		○		・ オンデマンド				
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク	
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ	
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他	
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略						わかる目標・できる目標					
	1 ～ 4		基礎学力の確認と基本計算力						① 基本的計算力が定着する					
	5 ～ 10		数学的各種基本単位の修得						② 代数を扱える					
	11 ～ 15		基礎数学の考え方（百分率）						③ 百分率の計算ができる					
	16 ～ 14		基礎数学の考え方（距離、時間、速さ、容積）						④ 推論に対して情報を図示できる					
	15 ～ 20		割合と損益計算						⑤ 確率の考え方を習得して問題を解ける					
	21 ～ 25		推論と命題						⑥ 順列と組み合わせの相違を理解する					
	26 ～ 30		確率、組合せ、順列						⑦ 順列・組み合わせの問題が回答できる					
	31 ～ 34		集合の理論						⑧ 逆数を理解し仕事算問題を解ける					
	35 ～ 40		仕事算の考え方						⑨ 表とグラフの解釈ができる					
	41 ～ 42		表とグラフ						⑩ グラフの領域問題が解ける					
	43 ～ 45		資料解釈におけるデータの見方						⑪ 時間内での問題回答数をあげられる					
	46 ～ 60		SPI 実践対策（練習問題による演習含む）						⑫ 設問に対する解法の手段を選定できる					
								⑬ 様々な出題に解法の選択ができる						
成績評価方法		【前期】・ 期末筆記試験（50%）、出席率（50%） 【後期】・ 期末筆記試験（40%）、後期課題（30%）、出席率（30%）												
使用テキスト ／教材		教材：キャリアデザインノート（オリジナルテキスト） 副教材（演習問題用）：これが本当のSPI3だ（講談社）												
関連科目		客室キャリアデザインⅡ												
その他														

シラバス（授業概要） 2025 年度

2025 年度

授業科目名		エアライン英語Ⅰ											
学科・コース		国際交流科											
担当教員		松永 清美・関根 由美子											
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位	
講義		・演習		2		通年		必修		30		2	
授業目的 到達目標		エアライン採用試験に向けTOEIC550点取得を目指します。											
授業手法		・対面		・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド					
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		○	反転授業			調査授業			フィールドワーク			
	双方向アンケート			ペアワーク		○	グループワーク		○	ロールプレイ		○	
	プレゼンテーション		○	PBL			模擬授業			その他			
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略						わかる目標・できる目標					
	1～4	授業説明、各パート毎の解説						①TOEICテストについて理解する ② 各自の得意パートと苦手パートの把握 ③目標スコアの設定 ④目標達成に向けた取り組み方法を確認 ⑤単語力強化によるリーディング力強化 ⑥ 英語耳を作り、リスニング力を強化 ⑦ 英語の音声に近い発音を習得する ⑧実際に仕事で使えるフレーズや単語を身に付ける					
	5～6	TOEICミニ模試											
	7～8	TOEIC TEST Part1・2・5 説明と問題演習											
	9～10	前期末テスト											
	11～18	TOEIC TEST Part3・4・6・7 説明と問題演習											
	19～20	TOEICミニ模試											
	21～26	TOEIC TEST Part3・4・6・7 説明と問題演習											
	27～28	後期期末試験											
	29～30	TOEIC TEST Part3・4・6・7 説明と問題演習											
成績評価方法		期末テスト50% 平常点（出席率・授業態度・課題提出・小テスト）50%											
使用テキスト／教材		・キクタンTOEIC L&RテストSCORE500 ・POSITIVE STEPS TO THE TOEIC L&RTEST ・ミニ模試トリプル10 TOEIC L&Rテスト ・SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST BEGINNER											
関連科目		エアライン英語Ⅱ											
その他		レベルに応じて2クラス編成 電子辞書または英和辞典を持参すること											

2025 年度

授業科目名		手話演習Ⅰ																							
学科・コース		国際交流科																							
担当教員		大川香織																							
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位													
演習		・講義		2		通年		必修		60		2													
授業目的 到達目標		手話検定4級合格を目標とします。また、基本的な手話会話を習得することを目指します。																							
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド											
アクティブ ラーニング		事前学習型授業						反転授業			○			調査授業						フィールドワーク					
		双方向アンケート						ペアワーク			○			グループワーク			○			ロールプレイ					
		プレゼンテーション						PBL						模擬授業						その他					
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略										わかる目標・できる目標												
	1～2		講義① 聴覚障害の基礎知識										① 基本的な会話を覚える ② 表情を豊かに表す ③ 声を出さずに手話を表す ④ 手話は言語であることを知る ⑤ 聴覚障害について理解する ⑥ 全国手話検定4級合格を目指す ⑦ ゲスト講師との会話練習を学ぶ ⑧ 指文字、4級単語を覚える ⑨ 動画、ホームワークを予習する ⑩ 伝える努力をする												
	3～12		第1講座～第5講座																						
	13～14		講義② 手話の基礎知識（ことばのしくみ）																						
	15～44		第6講座～第20講座(8講座・20講座テスト)																						
	45～46		講義③ 聴覚障害者の生活（ゲスト講師）																						
	47～48		ゲスト講師授業																						
	49～52		手話検定対策授業																						
	53～56		手話検定対策授業（ゲスト講師）																						
	57～60		手話検定対策授業																						
成績評価方法		テスト60% 出席率40%																							
使用テキスト／教材		手話奉仕員養成テキスト 手話を学ぼう 手話で話そう																							
関連科目		手話演習Ⅱ、ユニバーサルサービス																							
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である																							

シラバス（授業概要）										2025 年度							
授業科目名		FA面接															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		松永 清美 ・ 阪本 知恵 ・ 蓬萊 正樹															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技				2		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		客室乗務員の採用面接試験を突破することを目的とします。第一印象の好感度を上げ、自己表現力を高めるため自己分析を徹底的に行います。															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		航空業界の面接を知る								① 航空業界の採用面接試験について知る ② 適切な言葉遣いができる ③ 姿勢・発声・立居振舞を磨く ④ 表情良く話ができる ⑤ 好感度の高い第一印象を作り上げる ⑥ 自己分析を徹底し、自己を理解する ⑦ 伝えたいことを明確に伝えられる スキルを身に付ける ⑧ どのような事を聞かれても落ち着いて 自身の想いを伝えられる						
	3～4		立ち姿 座り姿 入退室 第一印象														
	5～8		自己分析 表情コントロール														
	9～14		エントリーシート対策（自己PR、志望動機等）														
	15～18		模擬面接（過去のエントリーシートに基づく）基本														
	19～22		模擬面接（過去のエントリーシートに基づく）企業ごと														
	23～26		企業様就活特別授業 模擬面接														
	27～30		ディスカッション 就職対策に向けて														
成績評価方法		出欠席（30％）・提出物、取り組み姿勢（30％）・各学期末試験（40％）															
使用テキスト ／教材		面接テキスト（オリジナル）															
関連科目		客室キャリアデザインⅡ															
その他		身だしなみを整えて受講すること ※実務経験のある教員が担当する科目である															

シラバス（授業概要）	2025 年度
------------	---------

2025 年度

授業科目名	客室実習Ⅰ												
学科・コース	国際交流科												
担当教員	阪本 知恵・松永 清美												
授業形態(主)	授業形態	履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
実技		2		通年		必修		60		2			
授業目的 到達目標	保安要員とサービス要員の二つの役割を理解しその責任を全うするために必要な考え方、資質を身につけることを目標とします。実習を通し正しい言葉遣い、美しい立居振舞を身につけます。												
授業手法	・対面	○		・遠隔			・対面/遠隔			・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業	○		反転授業				調査授業			フィールドワーク		
	双方向アンケート			ペアワーク		○		グループワーク		○	ロールプレイ		
	プレゼンテーション	○		PBL				模擬授業			その他		
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略						わかる目標・できる目標					
	1～4	概要説明、目標設定、スケジュール						①2年間の明確な目標設定と月ごとの目標、日々の目標等を定めることができる ②客室乗務員の業務がわかる ③客室乗務員に必要な資質がわかり、身につけるために必要なことを学ぶ ④実際のサービスについて知り、実践できる ⑤学んだことを他コースの学生へ提供できる ⑥機内の設備や装備品について知識を得る ⑦保安用品や保安業務の重要性を知る ⑧緊急時対応について学び、実際に脱出研修で体験する ⑨客室乗務員の大切な業務や必要な資質を知り目指す姿を明確にする					
	5～8	業務の流れ、客室乗務員の資質、接客用語											
	9～14	FDA様連携授業											
	15～22	国内研修											
	23～28	サービス業務復習											
	29～30	前期末試験											
	31～36	前期復習、マインドセット											
	37～40	FDA様連携授業											
	41～44	コース外連携授業AS											
	45～46	保安の知識（機内の設備と装備品）											
	47～48	保安の知識（安全性チェック）											
	49～54	航空機緊急脱出訓練研修											
	55～58	保安業務総復習等											
59～60	後期末試験												
成績評価方法	・出欠席（20％）・授業内取り組み（35％）・各学期末試験（35％）・FDA様評価（10％）												
使用テキスト ／教材	・エアラインテキスト(オリジナル)												
関連科目	客室実習Ⅱ												
その他	・身だしなみを整えて受講すること（女子学生はスカーフ着用必須） ・実務経験のある教員が担当する科目である												

2025 年度

授業科目名		客室英会話Ⅰ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		阪本 知恵															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		2		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		客室乗務員の業務、航空機について英語で学び、業務理解に繋がります。また、様々な表現や航空業界で使われる単語を習得することで英語力を向上させることを目的とします。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業内容・ 授業計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		Unit 1: The Flight Crew														
	3～4		Unit 2: Airline Employees								① 客室乗務員の業務が英語で理解できる						
	5～6		Unit 3: People in the Airport								② 航空業界全体のつながりを英語で理解できる						
	7～8		Unit 4: Parts of the Airport								③ 客室乗務員に必要な資質が英語で理解できる						
	9～10		Unit 5: Airport Security								④ 客室乗務員の業務の流れを英語で理解できる						
	11～12		Unit 6: Parts of an Aircraft								⑤ 単語を正しく発音できる						
	13～16		Unit 7&8: Parts of the Cabin								⑥ 業界用語を理解する						
	17～18		Unit 9: Physical Demands								⑦ 機体構造について知り、用語と機能がわかる						
	19～20		Unit 10: Appearance								⑧ 機内備品について理解する						
	21～24		Unit 12: Types of Flights								⑨ 航空機内特殊環境を知る						
	25～26		Unit 13: Types of Aircraft								⑩ 運航形態がわかる						
	27～28		Unit 14: Radio Communications														
	29～30		学期末試験														
成績評価方法		出欠席（20％） 取り組み姿勢（30％） 期末筆記試験（50％）															
使用テキスト／教材		CAREER PATHS Flight Attendant (Express Publishing)															
関連科目		客室英会話Ⅱ															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である															

2025 年度

授業科目名		客室キャリアデザインⅠ																
学科・コース		国際交流科																
担当教員		小尾純子・大橋美穂子・蓬莱正樹																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
講義				2		通年		必修		30		2						
授業目的 到達目標		客室乗務員の適性を理解し、その姿に自分自身を近づけることを目標とします。																
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティブ ラーニング	事前学習型授業						反転授業				調査授業				フィールドワーク			
	双方向アンケート						ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
	プレゼンテーション						PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略										わかる目標・できる目標						
	1～2	授業の目標の理解・客室乗務員になって何がしたいか										① 客室乗務員の適性を理解する。 ② 自己管理能力の習得。 ③ 客室乗務員向きの生活習慣の体得。 ④ 客室乗務員向きの印象を作る。 ⑤ 客室乗務員向きのコミュニケーション法 ⑥ 企業研究の手法を理解する。 ⑦ 肯定的思考力の体得。 ⑧ 想像力と会話力の強化。 ⑨ 働くことへの心構えができる。 ⑩ ストレスコントロール法の体得						
	3～4	心と体を鍛える①																
	5～6	社会人基礎力																
	7～8	航空会社と客室乗務員の役割																
	9～10	国内研修に向けて																
	11～12	心と体を鍛える②																
	13～14	客室乗務員の生活と訓練																
	15～16	評価																
	17～18	CAPから見た適性・企業研究のヒント																
	19～20	夏休み課題FB																
	21～22	ESのFB																
	23～24	伝える力																
	25～26	会話のキャッチボール																
	27～28	言葉を磨く																
29～30	評価																	
成績評価方法		出欠席40% 提出物30% 期末テスト30%																
使用テキスト ／教材		講師オリジナル書き込みノート																
関連科目		客室キャリアデザインⅡ																
その他		* 実務経験がある教員が担当する科目である。																

シラバス（授業概要） 2025 年度

2025 年度

授業科目名		航空知識Ⅰ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		今井 美佳															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義				2		通年		必修		30		2					
授業目的 到達目標		航空業界における様々な仕事を理解し、必須知識である専門用語やレターコードの習得を目標とします。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク				
	双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ				
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～2	DVD鑑賞資料を用いてのグループワーク								① 国内外主要航空会社コードを理解できる ② 国内外主要空港コードを理解できる ③ アルファベットコードを理解し 様々な単語をコードに変換し表現できる ④ 基本的な専門用語を理解できる ⑤ 基本的な危険物知識を理解できる ⑥ 国際線における100mlルールを理解できる ⑦ アライアンスをグループ分けできる ⑧ 出入国知識、CIQ各分野の役割を理解できる							
	3～4	日本及び外国主要航空会社コード															
	5～8	アライアンス及び共同運航															
	9～10	日本及び海外主要空港コード															
	11～12	マルチプルエアポート、アルファベットコード															
	13～14	専門用語															
	15～16	前期試験															
	17～20	世界の旅客機とメーカー、シートマップ															
	21～22	航空機について															
	23～24	基本的な危険物及び手荷物ルール															
	25～26	出入国知識（旅券・査証・CIQ）															
	27～28	総復習															
	29～30	後期試験															
成績評価方法		出欠席（20％）、授業態度（20％）、前期試験（30％）、後期試験（30％）															
使用テキスト ／教材		・航空知識テキスト ・講師作成資料 ・夢のお仕事シリーズDVD															
関連科目		航空知識Ⅱ															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		グランドハンドリング概論															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		望月 照夫															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義		・講義		2		通年		必修		30		2					
授業目的 到達目標		航空機の到着から次のフライトまでに、機側で行われる様々な準備業務について正しく理解し、グランドハンドリング業務のは幅広い知識を身につけることを目標とします。また、16時間は中部スカイサポート（株）との連携授業です。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他		○	
授業内容・授業計画	時間数		内容概略										わかる目標・できる目標				
	1～2		グランドハンドリングとは・空港の施設と名称										① グランドハンドリングの概要の理解 ② 機側作業のフローチャートを描ける ③ GSEの機能を説明できる ④ ULDの種類と搭載可能な機体の理解 ⑤ ロードシートが読めること ⑥ 航空貨物の種類と取扱いを理解する				
	3～4		ステイタイムと機側作業														
	5～8		中部スカイサポート連携授業（誘導業務実習）														
	9～10		GSEの種類と役割														
	11～14		中部スカイサポート連携授業（空港見学）														
	15～16		ULDの搭降載														
	17～18		前期評価試験														
	19～22		中部スカイサポート連携授業（ソーティング作業）														
	23～24		航空貨物と必要な書類														
	25～28		中部スカイサポート連携授業（タイダウン実習）														
	29～30		後期評価試験														
成績評価方法		【前期】評価試験60%・出席率20%・授業態度20% 【後期】評価試験60%（うち連携企業評価50%）・出席率20%・授業態度20%															
使用テキスト／教材		航空機のグランドハンドリング（日本航空技術協会）・自作プリント															
関連科目		旅客実習Ⅱ															
その他		グランドハンドリングに興味を持ち、その仕事に就職できるよう期待します。															

2025 年度

授業科目名		TIM基礎													
学科・コース		国際交流科													
担当教員		今井 美佳													
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
講義		・ 演習		2		後期		必修		30		2			
授業目的 到達目標		国際線の搭乗手続き時に必須である、各国の旅券・査証・入国の際の規則についての英文をTIM(Travel Information Manual)を用いて読み取る基礎力を身につけることを目指します。													
授業手法		・ 対面		○	・ 遠隔			・ 対面/遠隔			・ オンデマンド				
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		○	反転授業			調査授業			フィールドワーク					
	双方向アンケート			ペアワーク			グループワーク		○	ロールプレイ					
	プレゼンテーション			PBL			模擬授業			その他					
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略							わかる目標・できる目標						
	1～2	海外渡航における旅券、査証、TIMの重要性							① TIMの重要性、電子渡航認証を理解できる。 ② 授業で取り上げた各国の空港コードを理解できる。 ③ 入国時における旅券の必要残存期限を計算することができる。 ④ 授業で取り上げた各国の査証の有無を理解できる。 ⑤ 入国時における無査証での滞在可能期限を計算することができる。 ⑥ 英文でのTIMATICの文面に慣れ、重要な箇所を見つけることができる。 ⑦ あらゆる旅程からTIMATICを見て搭乗手続の可否を判断できる。						
	3～4	電子渡航認証について													
	5～6	日本国籍：シンガポール行きTIM内容													
	7～8	日本国籍：台湾行きTIM内容													
	9～10	日本国籍：韓国行きTIM内容													
	11～12	日本国籍：中国行きTIM内容													
	13～14	日本国籍：オーストリア行きTIM内容													
	15～18	無査証滞在可能期限の計算 基礎													
	19～20	小テスト													
	21～24	無査証滞在可能期限の計算 応用													
	25～28	演習、総復習													
	29～30	後期試験													
成績評価方法		後期期末本試験60%、小テスト30%、出席率及び授業態度10%													
使用テキスト／教材		講師作成資料													
関連科目		TIM応用													
その他		※実務経験がある教員が担当する科目である。 電子辞書、電卓を持参すること。 小テストは1回のみの実施の為、欠席の場合は課題提出にて評価とする。													

2025 年度

授業科目名		エアライン筆記対策												
学科・コース		国際交流科												
担当教員		山崎 弘												
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位		
講義		・ 演習		2		通年		必修		60		4		
授業目的 到達目標		不得意とする非言語分野の学力向上をし、採用試験（SPI）で成果を出すことを目標とします。												
授業手法		・ 対面		・ 遠隔		・ 対面/遠隔		○		・ オンデマンド				
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク	
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ	
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他	
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略						わかる目標・できる目標					
	1 ～ 4		基礎学力の確認と基本計算力						① 基本的計算力が定着する					
	5 ～ 10		数学的各種基本単位の修得						② 代数を扱える					
	11 ～ 15		基礎数学の考え方（百分率）						③ 百分率の計算ができる					
	16 ～ 19		基礎数学の考え方（距離、時間、速さ、容積）						④ 推論に対して情報を図示できる					
	15 ～ 20		割合と損益計算						⑤ 確率の考え方を習得して問題を解ける					
	21 ～ 25		推論と命題						⑥ 順列と組み合わせの相違を理解する					
	26 ～ 30		確率、組合せ、順列						⑦ 順列・組み合わせの問題が回答できる					
	31 ～ 34		集合の理論						⑧ 逆数を理解し仕事算問題を解ける					
	35 ～ 40		仕事算の考え方						⑨ 表とグラフの解釈ができる					
	41 ～ 42		表とグラフ						⑩ グラフの領域問題が解ける					
	43 ～ 45		資料解釈におけるデータの見方						⑪ 時間内での問題回答数をあげられる					
	46 ～ 60		SPI 実践対策（練習問題による演習含む）						⑫ 設問に対する解法の手段を選定できる					
								⑬ 様々な出題に解法を選択ができる						
成績評価方法		【前期】・ 期末筆記試験（50%）、出席率（50%） 【後期】・ 期末筆記試験（40%）、後期課題（30%）、出席率（30%）												
使用テキスト ／教材		教材：キャリアデザインノート（オリジナルテキスト） 副教材（演習問題用）：これが本当のSPI3だ（講談社）												
関連科目		GSキャリアデザイン												
その他														

シラバス（授業概要）	2025 年度
------------	---------

2025 年度

シラバス（授業概要）											2025 年度						
授業科目名		エアライン英語Ⅰ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		松永 清美・関根 由美子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義		・演習		2		通年		必修		30		2					
授業目的 到達目標		エアライン採用試験に向けTOEIC550点取得を目指します。															
授業手法		・対面		・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド									
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～4		授業説明、各パート毎の解説								①TOEICテストについて理解する ② 各自の得意パートと苦手パートの把握 ③目標スコアの設定 ④目標達成に向けた取り組み方法を確認 ⑤単語力強化によるリーディング力強化 ⑥ 英語耳を作り、リスニング力を強化 ⑦ 英語の音声に近い発音を習得する ⑧実際に仕事で使えるフレーズや単語を 身に付ける						
	5～6		TOEICミニ模試														
	7～8		TOEIC TEST Part1・2・5 説明と問題演習														
	9～10		前期末テスト														
	11～18		TOEIC TEST Part3・4・6・7 説明と問題演習														
	19～20		TOEICミニ模試														
	21～26		TOEIC TEST Part3・4・6・7 説明と問題演習														
	27～28		後期期末試験														
	29～30		TOEIC TEST Part3・4・6・7 説明と問題演習														
成績評価方法		期末テスト50% 平常点（出席率・授業態度・課題提出・小テスト）50%															
使用テキスト ／教材		・キクタンTOEIC L&RテストSCORE500 ・POSITIVE STEPS TO THE TOEIC L&RTEST ・ミニ模試トリプル10 TOEIC L&Rテスト ・SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST BEGINNER															
関連科目		エアライン英語Ⅱ															
その他		レベルに応じて2クラス編成 電子辞書または英和辞典を持参すること															

2025 年度

授業科目名		手話演習Ⅰ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		大川香織															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		2		通年		必修		60		2					
授業目的 到達目標		手話検定4級合格を目標とします。また、基本的な手話会話を習得することを目指します。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業		○		調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		講義① 聴覚障害の基礎知識								① 基本的な会話を覚える ② 表情を豊かに表す ③ 声を出さずに手話を表す ④ 手話は言語であることを知る ⑤ 聴覚障害について理解する ⑥ 全国手話検定4級合格を目指す ⑦ ゲスト講師との会話練習を学ぶ ⑧ 指文字、4級単語を覚える ⑨ 動画、ホームワークを予習する ⑩ 伝える努力をする						
	3～12		第1講座～第5講座														
	13～14		講義② 手話の基礎知識（ことばのしくみ）														
	15～44		第6講座～第20講座(8講座・20講座テスト)														
	45～46		講義③ 聴覚障害者の生活（ゲスト講師）														
	47～48		ゲスト講師授業														
	49～52		手話検定対策授業														
	53～56		手話検定対策授業（ゲスト講師）														
	57～60		手話検定対策授業														
成績評価方法		テスト60% 出席率40%															
使用テキスト／教材		手話奉仕員養成テキスト 手話を学ぼう 手話で話そう															
関連科目		手話演習Ⅱ、ユニバーサルサービス															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である															

2025 年度

授業科目名		GS面接															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		中西 裕子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技				2		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		航空業界の面接試験の対応力を対面・オンラインの両面から習得することを目標とします。姿勢や発声、第一印象等に繋がるアピランスも強化し、自分の出した回答からの質問にも答えられる瞬時の判断力と会話の引き出しを増やすことを目指します。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL		○		模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		面接の基本マナー①（身だしなみ・姿勢・発声・表情）														
	3～4		面接の基本マナー②（入室・退室、名乗り、お辞儀）								①自己について知る						
	5～6		自己分析①、自己紹介								②面接基本動作ができる						
	7～8		WEB面接対応術								③WEB面接の心得を知る						
	9～10		自己分析②								④印象の良い聴講姿勢を保つことができる						
	11～12		自己PR								⑤回答の引き出しをビルドアップできる						
	13～14		面接の基本的な質問								⑥協調性をもって取り組むことができる						
	15～16		前期評価（グループ模擬面接）								⑦将来のビジョンを答えることができる						
	17～18		グループディスカッション								⑧自分の回答に責任を持って答えることができる						
	19～22		企業研究								⑨突発的な質問に対して、時系列を守り、自分の言葉で落ち着いて回答できる。						
	23～24		志望動機														
	25～28		企業別過去出題質問による面接														
	29～30		後期評価（個人模擬面接）														
成績評価方法		期末試験（模擬面接）60%、提出物・取り組み姿勢30%、授業態度・出欠席10%															
使用テキスト／教材		面接対応テキスト（オリジナル）、教員作成プリント															
関連科目		GSキャリアデザイン															
その他		身だしなみを整え、制服着用のこと。															

2025 年度

授業科目名		航空予約システム演習Ⅰ																
学科・コース		国際交流科																
担当教員		中西 裕子																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
実習				2		通年		必修		60		2						
授業目的 到達目標		国際線の航空予約システムamadeusの操作習得を目標とします。空港・航空会社コード等の基本的な検索から、フライト情報や空席照会を学ぶことで、基本的な予約を作成するスキルを習得することを目指します。																
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク				
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ				
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～2		Amadeus Selling Platformの起動と終了コマンド								①アマデウスシステムの使い方を知る ②ヘボン式ローマ字を覚え入力できる ③情報の検索の種類を覚え、クイックガイドから探せる ④タイムテーブルを検索し読み取ることができる ⑤フライトスケジュールを検索し読み取ることができる ⑥空席照会をし読み取ることができる ⑦空席照会から基本的な予約ができる ⑧ダイレクアクセスが理解できる ⑨PNRを読み取ることができる ⑩基本的なPNRを作成できる							
	3～4		ヘボン式つづり															
	5～8		情報の検索・照会															
	9～12		空港コード、航空会社コード															
	13～14		タイムテーブル、フライトスケジュール															
	15～16		空席照会、基本予約															
	17～18		前期評価															
	19～22		フライトの予約															
	23～26		フライトの予約（乗継便）															
	27～30		PNR（Passenger Name Record）の作成															
			後期評価															
成績評価方法		期末試験60%、課題・小テスト30%、出席・授業態度10%																
使用テキスト／教材		ユーザーガイド予約・アマデウス予約クイックガイド（amadeus発行）、教員作成プリント																
関連科目		航空予約システム演習Ⅱ																
その他		空港コード、航空会社コード等、オペレーションに必要なコードは必ず覚えていくこと。 分野ごとに確認テストを実施するので、きちんと復習をすること。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。																

2025 年度

授業科目名	旅客実習Ⅰ													
学科・コース	国際交流科													
担当教員	中西 裕子													
授業形態(主)	授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
実技			2		通年		必修		60		2			
授業目的 到達目標	グランドスタッフに必要な業務知識の基礎と基本的な接客スキルやホスピタリティを身に付けることを目標とします。実践に結びつくロールプレイを通して、業務への理解をさらに深め、将来グランドスタッフとして活躍できることを目指します。また、16時間は（株）ドリームスカイ名古屋との連携授業です。													
授業手法	・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド	
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク	
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ	
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他	
授業内容・ 授業計画	時間数		内容概略						わかる目標・できる目標					
	1～2		空港支援業務とは。グランドスタッフ業務の概要、必要なスキル・資質・アピアランス						①空港の業務を知ることができる ②航空業界の各コードを理解することができる ③日本語・英語で搭乗手続きができる ④危険物を理解して手荷物預かりの案内ができる ⑤伝わるアナウンスができる（日・英語） ⑥可搬の使って交信ができる ⑦あらゆる種類の手荷物タグの役割を理解できる ⑧搭乗口での一連の業務を理解できる ⑨国際線、渡航書類についての知識を得る ⑩おもてなしの心を理解できる					
	3～4		カウンター業務基礎知識（各種コード・搭乗手続き）											
	5～8		国内線搭乗手続きロールプレイングテスト、搭乗手続き実演											
	9～10		手荷物、バゲージクレームタグ・リミテッドリリース											
	11～12		搭乗口業務基礎知識（出発・NOSH）、制限旅客											
	13～14		6月12日：第1回（株）ドリームスカイ名古屋連携授業											
	15～16		6月19日：空港研修（株）ドリームスカイ名古屋連携授業											
	17～18		前期評価試験											
	19～20		9月11日：第2回（株）ドリームスカイ名古屋連携授業											
	21～22		国際線基礎知識（渡航書類）、LL業務、危険物											
	23～24		10月9日：第3回（株）ドリームスカイ名古屋連携授業											
	25～28		国際線チェックインロールプレイングテスト（英語）、他コース連携授業											
	29～30		後期評価試験											
成績評価方法	【前期】 期末筆記試験 60%、ロールプレイ30%、平常点（授業態度、出欠席）10% 【後期】 期末筆記試験 50%、ロールプレイ30%、連携企業評価10%、平常点（提出物、出欠席）10%													
使用テキスト／教材	旅客実習テキスト（オリジナル）、教員作成プリント													
関連科目	旅客実習Ⅱ、GS接客中国語													
その他	アピアランスを整えて授業に参加すること。制服・スカーフ着用のこと。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。													

2025 年度

授業科目名		ホテル概論												
学科・コース		国際交流科												
担当教員		水谷 和史 青柳 宗宏												
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位		
講義		・実技		2		通年		必修		90		6		
授業目的 到達目標		ホテル業界を体系的に理解するため、業界の歴史やホテルブランド、職種ごとの業務や専門用語など、業界全般の知識習得を目標とします。知識定着確認のためホテルビジネス実務検定試験に挑戦します。												
授業手法		・対面		○	・遠隔			・対面/遠隔			・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク	
	双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ	○
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他	○
授業 内容 ・ 授 業 計 画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標				
	1～10	ホテルの基礎（・実務者の基本知識・ホテル英語）								①ホテル英語の基本 ②宿泊部門に関わる業務知識 ③料飲部門に関わる業務知識 ④宴会部門に関わる業務知識 ⑤調理部門に関わる業務知識 ⑥ホテルブランド知識				
	11～20	宿泊部門（宿泊部門の概要と実務）												
	21～30	料飲部門（料飲部門の概要と実務）、期末試験												
	31～36	宴会部門（宴会部門の概要と実務）、連携授業												
	37～40	調理部門（調理部門の概要と実務）、連携授業												
	41～42	ホテルビジネス実務検定試験												
	43～45	ホテルビジネス実務検定試験の解説												
成績評価方法		前期：期末試験（100%） 後期：検定結果（70%）・企業課題（30%）												
使用テキスト／教材		・ホテルビジネス基礎編 ・ホテルビジネス実務検定試験の練習過去問題集												
関連科目		「食文化とレストラン」「ホテルマネジメント」「ブライダル概論Ⅱ」「プロトコール」												
その他		・企業との連携授業を行います。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。												

シラバス（授業概要）

シラバス（授業概要）	2025 年度
------------	---------

授業科目名		料飲・宴会サービス実務Ⅰ																				
学科・コース		国際交流科																				
担当教員		水谷 和史・青柳 宗宏																				
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位										
実技				2		通年		必修		90		3										
授業目的 到達目標		フルコース料理のサービス技術とサービス英会話の習得を目標とします。カトラリーやテーブルの名前、テーブルセッティングの方法などを実践で学び実力をつけていきます。																				
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド								
アクティブ ラーニング		事前学習型授業						反転授業						調査授業				フィールドワーク				
		双方向アンケート						ペアワーク						グループワーク		○		ロールプレイ		○		
		プレゼンテーション						PBL						模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略										わかる目標・できる目標									
	1～6		会場の設営・撤収										① フランス料理コースの順序 ② シルバー（カトラリー）の知識 ③ グラスの知識 ④ ドリンクサービス ⑤ トレーサービス ⑥ プレートサービス ⑦ サーバーでのサービス ⑧ チューリンサービス ⑨ サービスの正確さ ⑩ 時間制限がある条件下のサービス									
	7～12		コース料理の基本順序と使用するシルバー・グラスについてテーブルセッティング																			
	13～18		プレートの持ち方、トレーの使い方、ワイン・シャンパン・ドリンクの注ぎ方																			
	19～24		サーバーの使い方、フルコースサービスの組み立て																			
	25～28		技術の復習、前期試験（7月）																			
	29～34		パンサービス、チューリンサービス																			
	35～40		サービスの練習（スピード・正確さの訓練）																			
	41～48		サービスの練習（時間意識及び周囲の動きへの意識強化）																			
	49～52		サービス練習（弱点の修正）																			
	53～56		サービス練習（ブラッシュアップ）																			
	57～60		サービスの練習、期末試験																			
成績評価方法		前期・後期末実技試験（サービス実技）100%																				
使用テキスト／教材		ホテル英会話基礎編、レストランサービスマニュアル																				
関連科目		料飲・宴会サービス実務Ⅱ、バンケット・レストランオペレーション レストランサービス実務、ブライダル実務Ⅱ																				
その他		時間を意識して取り組むこと。また、周囲の動きをよく見て、先を読んだ行動をすること。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。																				

シラバス（授業概要）
2025 年度

2025 年度

シラバス（授業概要）											2025年度						
授業科目名		ホテル宿泊実務															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		青柳 宗宏															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技				2		前期		必修		30		1					
授業目的 到達目標		宿泊部の業務理解と接客スキルを身につけるために、様々な状況下でのロールプレイを行います。 それにより、ホテリエとしての接客スキルを身につけることを目標とします。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～4		宿泊部の仕事について、フロント業務								①宿泊部の実務 ②ホテル英会話 ③オペレーション力 ④接遇力 ⑤クレーム対応の基本						
	5～10		接客サービス理論、ベル・ドア業務、ホテル英会話														
	11～16		クローク、ホテル英会話														
	17～22		接遇、オペレーター（電話での案内）、ホテル英会話														
	23～28		クレーム対応														
	29～30		期末評価														
成績評価方法		期末試験（100％）															
使用テキスト ／教材		教員作成資料、ホテル英会話基礎編															
関連科目																	
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		ブライダル概論														
学科・コース		国際交流科														
担当教員		草場 美奈子														
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位				
講義				2		通年		必修		60		4				
授業目的 到達目標		プランナーをはじめ、ブライダル業界の仕事や業務理解を目標とします。業界の歴史や業務内容、また、挙式・披露宴の成り立ちを知るために、挙式のスタイルやペーパーアイテム、衣装知識まで幅広く学びます。														
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド		
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク	○		
	双方向アンケート	○			ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ			
	プレゼンテーション	○			PBL		○		模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標						
	1・2	オリエンテーション								① ブライダルの歴史がわかる ② ブライダルの業務内容がわかる ③ 結婚式の種類がわかる ④ 披露宴の進行がわかる ⑤ 結納等、結婚式関連の知識がわかる ⑥ 和装やドレスの知識が深まる ⑦ ブーケや会場装花の知識が深まる ⑧ 関連企業との関係がわかる ⑨ 専門用語がわかる						
	3～8	Lesson1 結婚とは														
	9～14	Lesson2 ブライダルビジネス														
	15～22	Lesson3 ブライダルの基礎														
	23・24	前期 期末試験														
	25・26	前期の振り返り														
	27～30	※ゲストハウス見学研修														
	31～34	Lesson4 コーディネーター業務														
	35・36	Lesson5 打ち合わせ業務														
	37～48	Lesson6 コンポートシートに基づいたブライダルアイテムの選定														
	50・51	Lesson7 手配業務														
	52・53	Lesson8 当日業務														
	54～58	ブライダルコーディネート技能検定対策														
	59・60	後期 期末試験														
成績評価方法		前期…期末試験（持ち込み不可）100% 後期…授業内テスト（持ち込み不可）100%														
使用テキスト／教材		ブライダルコーディネーターテキスト<スタンダード>														
関連科目		ホテル概論・ブライダル実務Ⅱ														
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である														

2025 年度

授業科目名		ブライダル実務Ⅰ																		
学科・コース		国際交流科																		
担当教員		草場 美奈子																		
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位								
実技				2		後期		必修		30		1								
授業目的 到達目標		ブライダルプランナーの接客業務を実演できることを目標とします。新規接客業務をロールプレイング形式で実践することにより、幅広い提案力、接客力を身につけます。																		
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド						
アクティブ ラーニング	事前学習型授業						反転授業						調査授業				フィールドワーク		○	
	双方向アンケート						ペアワーク						グループワーク		○		ロールプレイ		○	
	プレゼンテーション						PBL						模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標									
	1・2		オリエンテーション 新規接客 ＊来館予約								① 接客の流れがわかる ② 新規接客業務の実演ができる ③ 魅力的な案内をするための表現力がつく ④ 好印象を与える立居振舞が身につく ⑤ コミュニケーション力が身につく ⑥ マーケティング知識が深まる									
	3・4		新規接客 ＊来館予約 ロールプレイングテスト																	
	5～8		新規接客 ＊アンケートからのヒアリング																	
	9～12		新規接客 ＊チャペル案内																	
	13～18		新規接客 ＊会場案内グループワーク																	
	19～22		新規接客 ＊会場案内ロールプレイングテスト																	
	23～26		新規接客 ＊仮予約ロールプレイング																	
	27～30		新規接客 ＊成約																	
成績評価方法		・ ロールプレイングテスト60％ ・ 授業取り組み姿勢20％ ・ 出席率20％																		
使用テキスト ／教材		ブライダル実務テキスト/配布プリント																		
関連科目		ブライダル実務Ⅱ																		
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である																		

2025 年度

授業科目名		テーブルコーディネート															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		前川理子・田寄節子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技		・演習		2		通年		必修		60		2					
授業目的 到達目標		テーマごとのテーブルコーディネートを考え、セッティングできることを目標とします。コーディネートに欠かせない装花や色彩の知識を深め、季節のコーディネートを作るなど、感性を磨きます。実技・演習形式															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業		○		その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		テーブルコーディネートとは								① コーディネートの目的がわかる ② コーディネートの基礎がわかる ③ コラージュがわかる ④ 色彩の基礎がわかる ⑤ プランニングがわかる ⑥ 記念日と歳時記がわかる ⑦ テーブルコーディネートができる ⑧ 花の扱いがわかる ⑨ 花の種類別特徴がわかる ⑩ 花を活けることができる						
	3～4		テーブルコーディネートの目的と理念														
	5～8		テーブルコーディネートコラージュ														
	9～12		コーディネート、デモンストレーション														
	13～18		イメージパターン表現と定義														
	19～22		テーブルプランニング														
	23～36		テーブルコーディネート実習・発表														
	37～38		色彩配色の基礎														
	39～40		世界の記念日と日本の歳時記														
	41～44		ブライダルテーブル装飾アイテムと留意点														
	45～54		テーブルフラワーを活ける														
	55～60		和のテーブルコーディネート														
成績評価方法		①実習・発表30% ②積極性・授業態度30% ③提出物・レポート40%															
使用テキスト／教材		TEXTBOOKテーブルコーディネート 配布プリント 課題にあわせた材料等															
関連科目		ブライダルコーディネート・ブライダル実務Ⅱ															
その他		実務経験のある教員が担当する科目である															

シラバス（授業概要）	2025 年度
------------	---------

2025 年度

授業科目名		ホテル・ブライダルキャリアビジョン																
学科・コース		国際交流科																
担当教員		草場 美奈子																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
演習				2		後期		必修		30		1						
授業目的 到達目標		自身のキャリアプランを描き、夢実現のための準備をすることが目標です。ホテル・ブライダル業界に特化したサポートを行い、入社3年後、5年後、10年後をイメージしていきます。																
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティブ ラーニング	事前学習型授業						反転授業						調査授業				フィールドワーク	
	双方向アンケート						ペアワーク						グループワーク		○		ロールプレイ	
	プレゼンテーション						PBL						模擬授業				その他	
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～2		授業説明、希望職種アンケート								① 目指す職業でのキャリアの理解 ② 業界・企業研究方法 ③ 「大変さ」と「やりがい」の理解 ④ 必要となる力の理解 ⑤ 企業名 ⑥ 自己PRの作成 ⑦ 志望動機の作成							
	3～8		「やりがい」「大変なこと」「イメージ」															
	9～12		業界で必要な力とは															
	13～16		企業研究①															
	17～20		自己PR															
	21～24		目指す仕事と企業研究②															
	25～28		志望の動機															
	29～30		期末評価															
成績評価方法		レポート提出60%、レポート内容40%																
使用テキスト ／教材		教員作成資料																
関連科目		キャリアサポートⅡ																
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。																

2025 年度

授業科目名		国内実務総合															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		白鳥佑弥															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義				2		前期		必修		90		6					
授業目的 到達目標		国内旅行で使用する交通手段の規則や運賃・料金計算手法の基礎知識習得を目標とします。 JR、航空、貸切バス、フェリー等について理解し、国内旅行業務取扱管理者試験に挑戦します。															
授業手法		・対面				・遠隔				・対面/遠隔		○		・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略										わかる目標・できる目標				
	1～2		用語の定義と在来線・新幹線の基礎知識										① JR在来線＆新幹線の基本と 運賃・料金計算の理解 ② 宿泊規則と料金体系の理解 ③ 貸切バス規則と料金計算の理解 ④ フェリー規則と料金計算の理解				
	3～10		JR運賃の計算・特例と割引														
	11～20		JR運賃計算演習														
	21～28		JR料金の基本														
	29～34		JR料金の特例														
	35～44		JR運賃・料金計算演習														
	45～50		団体旅客の取扱い														
	51～56		乗車券類の取扱い														
	57～64		国内航空規則と料金計算														
	65～68		宿泊規則と料金体系														
	69～73		貸切バス規則と料金計算														
	74～75		フェリー規則と料金計算														
	76～90		総合演習														
成績評価方法		評価試験60%、小テスト30%、出席率・学習意欲10%															
使用テキスト／教材		2025年版 ユーキャンの国内・総合旅行業務取扱管理者 速習レッスン、科目別問題集、国内運賃料金テキスト、JR時刻表															
関連科目																	
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である															

2025 年度

授業科目名	観光地理Ⅰ												
学科・コース	国際交流科												
担当教員	乗松陽子												
授業形態(主)	授業形態	履修年次			履修学期			必修・選択		総時間数		単位	
講義		2			通年			必修		60		4	
授業目的 到達目標	日本国内における観光資源の知識習得を目標とします。世界遺産・国宝・名所・温泉・祭・名産品などについて、所在地・プロフィールなど観光資源全般について学びます。												
授業手法	・対面			・遠隔			・対面/遠隔	○		・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業	○		反転授業			調査授業			フィールドワーク			
	双方向アンケート			ペアワーク			グループワーク			ロールプレイ			
	プレゼンテーション			PBL			模擬授業			その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略							わかる目標・できる目標				
	1～8	国内の観光基礎情報（都道府県、世界遺産、交通）							① 国内旅行業務取扱管理者レベルの 観光地理知識 ② 観光資源の歴史背景や おすすめポイントの理解 ※都市、名所、史跡、自然、温泉、 観光施設、祭事・芸能・文化、 料理・名産品、民芸・工芸品、 世界遺産などの情報				
	9～16	温泉地や周辺観光素材、日本三大・三名地											
	17～24	北海道・東北地方の観光情報											
	25～36	関東・中部地方の観光情報											
	37～40	近畿地方の観光情報											
	41～48	中国・四国地方の観光情報											
	49～56	九州地方・沖縄の観光情報											
	57～60	まとめ											
成績評価方法	評価試験30%、小テスト20%、サブノート仕上げ30%、出席率・学習意欲20%												
使用テキスト ／教材	国内観光資源、国内観光資源サブノート、旅地図日本												
関連科目	観光地理Ⅱ、観光素材概論												
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である												

2025 年度

授業科目名		旅行業法規															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		杉山三幸															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義				2		前期		必修		60		4					
授業目的 到達目標		旅行業法・旅行業約款の学習を通して旅行現場で働く上で必要な規則を理解できることを目標とします。															
授業手法		・対面				・遠隔				・対面/遠隔		○		・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～4		旅行業法（目的・定義・登録制度・営業保証金など）								① 旅行業法の理解 ② 旅行業約款の理解 ③ 旅行申込後の解約・払い戻し計算 ④ フェリー約款の理解 ⑤ 宿泊約款の理解 ⑥ 貸切バス約款の理解						
	5～8		旅行業法（取扱料金・取引条件説明・書面交付など）														
	9～12		旅行業法（広告・旅程管理・受託契約・など）														
	13～16		旅行業法（禁止行為・登録取消・業務改善命令など）														
	17～20		旅行業約款（募集型企画旅行契約）														
	21～24		旅行業約款（受注型企画旅行契約）														
	25～28		旅行業約款（特別保証・旅行相談契約）														
	29～32		旅行業約款（国内旅客運送、宿泊モデルなど約款）														
	33～36		旅行業約款（貸切バス、フェリー、JRなど約款）														
	37～60		答案練習														
成績評価方法		評価試験80%、 出席率・学習意欲20%															
使用テキスト／教材		2025年版 ユーキャンの国内・総合旅行業務取扱管理者 速習レッスン															
関連科目		旅行業務応用															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である															

2025 年度

授業科目名	ツアープランニング基礎												
学科・コース	国際交流科												
担当教員	白鳥佑弥												
授業形態(主)	授業形態	履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
演習	・実習	2		通年		必修		30		1			
授業目的 到達目標	旅行のプランニング基礎を学び、作成したプランを実際の研修として行くことで、旅行の楽しさや難しさを実感することを目標とします。実地研修時では、添乗員として誘導・案内も受け持ちます。												
授業手法	・対面			・遠隔			・対面/遠隔	○		・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業	○		反転授業			調査授業	○		フィールドワーク	○		
	双方向アンケート			ペアワーク			グループワーク	○		ロールプレイ			
	プレゼンテーション	○		PBL			模擬授業			その他			
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略						わかる目標・できる目標					
	1～2	旅行業界・旅行会社の仕事内容について						① 旅行業界・旅行会社の業務 ② 国内旅行の企画作成 ③ 添乗員の旅程管理業務					
	3～4	実施日に向けての作業内容指示、旅行会社より行程作成の助言											
	5～6	行程完成確認、担当役割分担、行程作成手直し、役割分担下調べ											
	7～8	行程作成の下調べ											
	9～10	行程作成進捗確認、助言											
	11～12	行程確認											
	13～14	実施前プレゼン、レポート提出											
	15～16	行程作成手直し											
	17～18	最終行程の完成・添乗準備											
	19～26	国内研修											
	27～28	実施後のレポート作成											
	29～30	実施後の報告プレゼン、総合まとめ											
成績評価方法	報告プレゼン50%、小テスト30%、出席率・学習意欲20%												
使用テキスト／教材	旅行会社作成資料、ワークシート（行程作成用データ）												
関連科目	ツアープランニング応用												
その他	※職業実践専門課程の「企業連携授業」として、旅行会社との連携授業である ※実務経験のある教員が担当する科目である												

2025 年度

授業科目名		旅行業務基礎															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		乗松陽子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義				2		後期		必修		60		4					
授業目的 到達目標		旅行・観光業界で働く上で必要な知識と基本業務の流れを理解できることを目標とします。移動手段や宿泊施設・食事など、様々な旅行商品を的確に選択する方法や、添乗業務全般について学外研修等で学びます。															
授業手法		・対面				・遠隔				・対面/遠隔		○		・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業内容・ 授業計画		時間数		内容概略						わかる目標・できる目標							
		1～12		旅行会社の仕組み等、旅行業界の全般的な知識						① 国内旅行パンフレットの基本知識 ② 旅行代金算出方法 ③ お客様の要望に応じた施設提案 ④ パンフレット取引条件説明の理解							
		13～24		パンフレット料金計算（大人）													
		25～32		カウンターでの接客ロールプレイング①													
		33～44		パンフレット料金計算（子供含む複雑パターン）													
		45～52		カウンターでの接客ロールプレイング②													
		53～60		まとめ													
成績評価方法		評価試験50％、課題提出30％、出席率・学習意欲20％															
使用テキスト／教材		旅行会社パンフレット、パソコン															
関連科目		旅行業務応用															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である															

2025 年度

授業科目名		海外渡航基礎													
学科・コース		国際交流科													
担当教員		今井美佳													
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
講義		・ 演習		2		後期		必修		30		2			
授業目的 到達目標		海外渡航に必要な基礎知識習得し、お客様へ海外渡航の魅力や注意点を説明できることを目標とします。海外渡航における基本的な流れと知識（世界の国・都市名、旅券・査証、入出国、時差など）を学びます。													
授業手法		・ 対面				・ 遠隔				・ 対面/遠隔		○		・ オンデマンド	
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク	
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他	
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標					
	1 ～2	オリエンテーション、海外の国名と主な都市名								① ヨーロッパ・東南アジアの 国名首都名及び主な都市名 ② 出入国の流れとCIQの役割 ③ 世界の主要航空会社2レターコード 及びアライアンスの関係 ④ 世界の主要空港3レターコード ⑤ 世界の時差計算 及び所要時間の計算					
	3 ～6	海外の国名と主な都市名													
	7 ～10	国内外の空港コード（3レター）													
	11 ～14	国内外の航空会社コード（2レター）													
	15 ～16	アライアンス													
	17 ～18	小テスト													
	19 ～22	出入国知識（旅券・査証・CIQ）													
	23 ～26	時差・所要時間計算													
	27 ～30	答案練習（総復習）													
成績評価方法		期末試験60％、小テスト30％、出席率・学習意欲10％													
使用テキスト ／教材		教員作成資料、OAG世界時差表													
関連科目		海外実務総合、航空端末オペレーション													
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である													

2025 年度

授業科目名	観光産業と地方創生												
学科・コース	国際交流科												
担当教員	白鳥佑弥												
授業形態(主)	授業形態	履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
講義	・ 演習	2		後期		必修		30		2			
授業目的 到達目標	観光産業拡大と共に持続可能な地域づくりを支援・推進するための組織や機能について理解することを目標とします。地域資源の活用や受け入れ施設の整備など、成功例・先進例・課題点を学び、観光の視点で解決する力を身につけます。												
授業手法	・ 対面			・ 遠隔			・ 対面/遠隔	○		・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業	○		反転授業			調査授業	○		フィールドワーク	○		
	双方向アンケート			ペアワーク			グループワーク			ロールプレイ			
	プレゼンテーション	○		PBL			模擬授業			その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略						わかる目標・できる目標					
	1 ～2	導入、観光が人・社会にもたらす効果						① 観光産業が日本経済にもたらす役割 ② 観光産業と地方創生の関係性 ③ 観光地域づくり法人（DMO）と 観光協会の役割					
	3 ～6	観光資源と観光対象											
	7 ～10	観光産業と観光ビジネスの特徴											
	11 ～14	旅行会社と交通・宿泊・観光施設との関わり											
	15 ～16	国・地方における観光振興組織と観光政策											
	17 ～18	地方創生×観光の具体的事例											
	19 ～22	静岡県観光協会の取り組み											
	23 ～26	熱海観光局の取り組み											
	27 ～30	まとめ											
成績評価方法	期末試験40％、課題レポート30％、出席率・学習意欲30％												
使用テキスト／教材	講師作成資料												
関連科目	観光資源探求												
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である												

2025 年度

授業科目名	観光業界キャリアビジョン												
学科・コース	国際交流科												
担当教員	白鳥佑弥												
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位							
演習	・実習	2	後期	必修	30	1							
授業目的 到達目標	自身のキャリアプランを描き、夢実現のために準備をします。旅行・バス・鉄道会社等の現場視察を通して表向きだけではなく様々な業務・事情を知ること、即戦力として長く働くためのマインドを育成します。												
授業手法	・対面		・遠隔		・対面/遠隔	○	・オンデマンド						
アクティブ ラーニング	事前学習型授業	○	反転授業		調査授業	○	フィールドワーク	○					
	双方向アンケート		ペアワーク		グループワーク		ロールプレイ						
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他						
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略				わかる目標・できる目標							
	1～2	導入、仕事説明、希望職種アンケート				① 目指す職業でのキャリアの理解 ② 業界・企業の特徴 ③ 仕事の「大変さ・やりがい」の理解 ④ 業務上必要となる力の理解							
	3～4	業界・企業の特徴、業界で必要な力について											
	5～10	現場視察企業の研究											
	11～24	現場視察研修											
	25～30	研修まとめ、業界・企業研究											
成績評価方法	課題レポート70%、出席・参加態度30%												
使用テキスト／教材	教員作成資料												
関連科目													
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である												

2025 年度

授業科目名		外国語Ⅰ（中国語）															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		金 小賢															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義		・ 演習		2		通年		選択		30		2					
授業目的 到達目標		中国語の学習を通して、豊かな発想力を涵養する。言葉の学習の過程で人間的な観察力、物事の分析力、課題設定力そして充実した気力が磨かれる。中国語検定HSK 3級の合格を目指し、中国語の聴解力、正確な日常活動の応答力を身に付ける。															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート		○		ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業		○		その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～3		発音の基本/単語の覚え方の紹介								① 発音の仕組みを心得る ② 会話文の表現の特徴を把握できる ③ 自らの応答を正確、且つ効果的に表現 ④ 常用名詞を300個聴解できる ⑤ 常用動詞を300個聴解できる ⑥ 日常的な会話文を創れる ⑦ 臨機応変に単語文章化にする ⑧ 文章に正しい単語を織り込ませる ⑨ 新しい言葉学習の習慣を身に付ける ⑩ 漢字で意味のイメージできる						
	4～6		応用から基礎をつくるための学び方														
	7～9		絵を見て正確な表現を学ぶ														
	10～12		単語で文の順番を正確に配置するコツを覚える														
	13～15		会話文のかみ合わせ練習														
	16～18		単語の聴解/テーマ別でロールプレイ														
	19～20		前期定期評価														
	21～24		HSK中国語検定の練習法の紹介														
	25～30		短文と短文の結び方練習 1														
	31～32		短文と短文の結び方練習 2														
	33～36		聴解の文章理解練習 1														
	37～40		聴解の文章理解練習 2														
	41～44		より良い文章の見分け方/オリジナル会話作文														
	45～46		後期定期試験														
成績評価方法		定期試験50%、課題提出20%、小テスト20%、授業参加モチベーション10%															
使用テキスト／教材		中国語検定HSK公式過去問集3級															
関連科目		外国語Ⅱ															
その他		毎日単語10個朗読する。※実務経験のある教員が担当															

2025 年度

授業科目名		外国語Ⅰ（韓国語）															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		鄭 泰元															
授業形態（主）		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義		・演習		2		通年		選択		30		2					
授業目的 到達目標		韓国語の文字を読む・基礎文法の習得・基本表現（叙述形、否定形）ができる															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業内容・ 授業計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		ハングルの母音及び子音練習/簡単な挨拶								①文字が読める ②通じる発音で話せる ③叙述形（～です、～ます）が理解できる・話せる ④疑問形（～ですか？～ますか？）が理解できる・話せる ⑤否定形が理解できる・話せる ⑥時間を聞ける、答えられる ⑦値段を聞ける、答えられる ⑧会話体(～요)が理解できる・話せる ⑨ 過去形「いつどこでなにをしたか」の文章 が作れる						
	3～4		発音規則ハングルの母音及び子音練習/簡単な挨拶/激音・濃音練習														
	5～6		ハングルのすべての子音・母音練習/パッチム練習														
	7～8		叙述形（名詞＋です）														
	9～10		叙述形（動詞＋ます・形容詞＋です）														
	11～12		何時ですか？（時間を聞く・答える） ビジネス会話(ホテル)														
	13～14		前期評価														
	15～16		いくらですか？（値段を聞く・答える） ビジネス会話(ホテル)														
	17～18		動詞形容詞の活用練習/ビジネス会話(ホテル)														
	19～20		否定形（動詞、形容詞）ビジネス会話(空港)														
	21～24		会話体（丁寧でやさしい表現）ビジネス会話(空港)														
	25～28		過去形の練習/ビジネス会話まとめ														
	29～30		後期評価														
成績評価方法		授業参加度30%、評価試験70%															
使用テキスト／教材		韓国語を学ぼう初級、プリント資料															
関連科目		外国語Ⅱ															
その他																	

2025 年度

授業科目名		国際ビジネス基礎															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		山梨千恵子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義				2		通年		必修		30		2					
授業目的 到達目標		国際ビジネスの基礎知識となる国際経済地理として世界の産業や貿易、様々な国際規格について学ぶ。輸出入の物流の仕組みなど国際物流の知識を企業連携を通して実践的に学びます。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		航空貨物概要①								① 航空貨物の知識を身に付ける ② 輸出サイド、輸入サイドでの業務について知る ③ 主要な国々の都市コード、空港コードが分かる ④ 海上輸送貨物の知識を身に付ける ⑤ 貿易取引の流れが分かる ⑥ 通関関連法務の知識を身に付ける ⑦ 通関関連知識を身に付ける ⑧ 世界の国々と日本の関係を知る						
	3～4		航空貨物概要② 現場研修														
	5～6		航空貨物概要③														
	7～8		グループワーク輸出編														
	9～10		グループワーク輸入編														
	11～14		国際海上貨物概要														
	15～20		通関関連知識														
	21～26		通関関連実務														
	27～30		通関地理														
成績評価方法		出席25%、レポート25%、試験50%															
使用テキスト／教材		通関ビジネス実務ベーシックマニュアル、配布プリント															
関連科目		国際ビジネス応用															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		TOEIC Speaking I															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		Anthony Cook															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・ 講義		2		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		The TOEIC® Speaking Test is a 20-minute, 11 question assessment of a person's spoken English proficiency. This course will guide students through the question types, test strategies, and test simulation.															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		Unit 1: Read a Text Aloud I								① テストの形式を理解する ② テスト内容を理解する ③ 試験時間を理解する ④ 採点基準を理解する ⑤ 発音の改善 ⑥ イントネーションの改善 ⑦ 流暢さの向上 ⑧ フォーマルなフレーズ						
	3～4		Unit 2: Read a Text Aloud II														
	5～6		Unit 3: Describe a Photograph I														
	7～8		Unit 4: Describe a Photograph II														
	9～10		Unit 5: Respond to Questions I														
	11～12		Unit 6: Respond to Questions II														
	13～14		Unit 7: Schedules & Advertisements I														
	15～16		Unit 8: Schedules & Advertisements II														
	17～18		Unit 9: Express an Opinion I														
	19～20		Unit 10: Express an Opinion II														
	21～22		Unit 11: Review Test 1														
	23～24		Unit 12: Review Test 2														
	25～26		Unit 13: Review Test 3														
	27～28		Unit 14: Review Test 4														
29～30		Unit 15: Review Test 5															
成績評価方法		Effort & Participation 25%, Paper Test 75%															
使用テキスト ／教材		Class materials will be distributed at the start of each class.															
関連科目		TOEIC Speaking II															
その他		This class is conducted in English. You may require your PC sometimes. ※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		カスタマーサービス概論															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		大石 麻美															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		2		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		日本が世界に誇るおもてなしの心とは何かについて、グループワークを中心に学びます。また、幅広い接客接客業界の動向及び職種の内容についても理解を深め、適切なカスタマーサービスを提供できるスキルを習得します。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～2	授業説明・おもてなしとは何か								①おもてなしの基礎が理解できる ②必要な表現力を理解し活用できる ③各業界の違いを理解できる ④各業界の必要要素を理解できる ⑤各業界で必要なおもてなしを提供できる ⑥基本的な語彙力・表現力を習得できる							
	3～6	おもてなしの業界・職種理解															
	7～10	表現力の重要性															
	11～14	「航空業界」を理解する															
	15～18	「ホテル業界」を理解する															
	19～22	「旅行・観光業界」を理解する															
	23～26	「小売業界」を理解する															
	27～30	総括															
成績評価方法		出欠席（35％）授業態度（30％）提出課題（35％）															
使用テキスト ／教材		講師作成プリント															
関連科目		国際ビジネス応用															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		Communicative English I															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		Anthony Cook															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技		・ 講義		2		通年		必修選択		60		2					
授業目的 到達目標		Students learn about a different country each lesson. They will learn and discuss the history, food, culture, tourist spots, and language of the country. This class is conducted in English.															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート		○		ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略										わかる目標・できる目標					
	1～2	Iceland & The Philippines										① 外国の歴史的事実を学ぶ ② 外国語で自己紹介ができる ③ 海外の観光スポットを知ることができる ④ 外国の食文化を学ぶ ⑤ 外国についての意見を書くことができる ⑥ 文化的認識を深める					
	3～4	Denmark & Jamaica															
	5～6	New Zealand & Peru															
	7～8	Canada & Italy															
	9～10	Poland & Thailand															
	11～12	Spain & Hawaii															
	13～14	Malaysia & Argentina															
	15～16	Sweden & South Korea															
	17～18	Malta & Hong Kong															
	19～20	France & Australia															
	21～22	Portugal & Germany															
	23～24	Brazil & UK															
	25～26	Holland & Mexico															
	27～28	China & New Zealand															
29～30	Norway & India																
成績評価方法		Attendance 25%, Effort & Participation 25%, Written Reports 50%															
使用テキスト ／教材		Materials related to each country will be distributed at the beginning of the lesson.															
関連科目		Communicative English II, TOEIC Speaking II, English Reading															
その他		Students are required to bring their PC to class. This class is conducted in English. ※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		比較文化研究Ⅰ											
学科・コース		国際交流科											
担当教員		山梨千恵子											
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位	
講義		・演習		2		通年		必修		30		2	
授業目的 到達目標		グローバル社会において必要な「異文化理解力」を身に付けるための素地を獲得することを目標とする。世界各国の文化を比較しながら、時候の文化、世界情勢、国際問題についての理解を深めます。											
授業手法		・対面		○	・遠隔			・対面/遠隔			・オンデマンド		
アクティブ ラーニング	事前学習型授業			反転授業			調査授業		○	フィールドワーク			
	双方向アンケート			ペアワーク			グループワーク		○	ロールプレイ			
	プレゼンテーション		○	PBL		○	模擬授業			その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略							わかる目標・できる目標				
	1～2	グローバル社会の基礎知識、「異文化理解力」とは							① 異文化理解の知識 ② ローコンテキスト文化・ハイコンテキスト文化の知識 ③ 移民についてのトピックの理解 ④ 世界三大宗教・世界の宗教についての基礎知識 ⑤ 世界の食文化の基礎知識 ⑥ 言語と文化についての基礎知識 ⑦ 世界遺産・文化財についての基礎知識 ⑧ 世界の美術・芸術についての基礎知識 ⑨ 世界経済の基礎知識 ⑩ 比較文化研究のプレゼンテーションができる				
	3～4	ハイコンテキスト文化・ローコンテキスト文化											
	5～6	文化の影響と社会制度・移民問題と多文化主義											
	7～10	世界の宗教・多文化共生社会											
	11～14	食文化・食習慣・風土・歴史											
	15～16	プレゼンテーション①											
	17～18	言語と文化・多種多様な非言語コミュニケーション											
	19～20	世界遺産・日本の文化遺産/文化財											
	21～22	美術と芸術											
	23～26	世界の経済と情報社会・デジタル化で変革する社会											
	27～30	プレゼンテーション②											
成績評価方法		出席率(50%)、授業レポート(30%)、プレゼンテーション(20%)											
使用テキスト／教材		授業内で配布する資料											
関連科目		比較文化研究Ⅱ											
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。											

2025 年度

授業科目名	Vocational English I												
学科・コース	国際交流科												
担当教員	Anthony Cook												
授業形態(主)	授業形態	履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
演習	・講義	2		通年		必修		30		1			
授業目的 到達目標	This course is designed to provide an introduction to the various types of career in which English is used. Each unit will focus on the types of phrases and vocabulary used as well as useful information about the specific responsibilities of each line of work.												
授業手法	・対面	○		・遠隔			・対面/遠隔			・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業			反転授業			調査授業			フィールドワーク			
	双方向アンケート	○		ペアワーク	○		グループワーク	○		ロールプレイ	○		
	プレゼンテーション			PBL			模擬授業			その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略						わかる目標・できる目標					
	1～2	Working for Airlines						① キャリアの選択肢に対する意識の向上 ② 仕事の責任についての理解を深める ③ 英語で自己紹介ができる ④ 面接での質問を理解する能力 ⑤ 面接の質問に答える能力					
	3～4	Working at Airports											
	5～6	Working at Hotels											
	7～8	Working at Tourist Attractions											
	9～10	Working with Children											
	11～12	UWorking with foreign languages											
	13～14	Self-Introduction in English											
	15～16	Interview Questions about Self I											
	17～18	Interview Questions about Self II											
	19～20	Interview Questions about Work I											
	21～22	Interview Questions about Work II											
	23～24	Review Lesson 1											
	25～26	Review Lesson 2											
	27～28	Review Lesson 3											
29～30	Review Lesson 4												
成績評価方法	Effort & Participation 25%, Paper Test 75%												
使用テキスト ／教材	Materials related to each career, will be distributed at the beginning of each class.												
関連科目	Vocational English II												
その他	This class is conducted in English. ※実務経験のある教員が担当する科目である。												

2025 年度

授業科目名		ビジネス英語																							
学科・コース		国際交流科																							
担当教員		杉山和代																							
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位													
講義		・ 演習		2		前期		必修		30		2													
授業目的 到達目標		貿易に関する基礎知識を習得する。英文Eメールやレターの読み方、海外取引の概要を理解する。																							
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド											
アクティブラーニング		事前学習型授業						反転授業						調査授業						フィールドワーク					
		双方向アンケート						ペアワーク						グループワーク						ロールプレイ					
		プレゼンテーション						PBL						模擬授業						その他					
授業内容・ 授業計画	時間数		内容概略										わかる目標・できる目標												
	1～2		英文レターのフォーマットとEメールの注意点										① 短めの英文レターが読める ② 短めの英文Eメールが読める ③ 基本的な貿易書類の内容が理解できる ④ 信用状取引の概要を理解できる ⑤ 輸出入における、ものとお金と書類の流れを理解できる ⑥ 英語でレターとEメールの定型文が書ける												
	3～4		レターとEメールにおける定型文の英作文																						
	5～8		さまざまな場面のレターの内容理解																						
	9～12		さまざまな場面のEメールの内容理解																						
	13～16		信用状取引の概要理解																						
	17～20		さまざまな貿易書類の基本的な理解																						
	21～24		輸出入における、ものとお金と書類の流れの理解																						
	25～30		海外取引を行う2社の、契約までの流れ（Eメール）																						
成績評価方法		出席率（10%）と、期末試験（90%）																							
使用テキスト／教材		日商ビジネス英語検定3級のテキストを基に講師が作成したプリント																							
関連科目		国際ビジネス応用																							
その他		記載のコマ数は授業の進行具合によって変わる場合がある																							

2025 年度

授業科目名		Mind Awareness															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		松永 祐子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		2		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		社会人として必要となる自己調整力をさまざまな角度から学んでいきます。理論を理解するだけでなく、日常で実践することにより、自分らしい幸せな生き方・働き方を見つけていくことを目指します。自己診断ツールを活用した授業も行っています。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		授業説明・自己紹介								①自己調整力を高めることができる ②他者との関係づくりのコツが分かる ③自分の感情を自分で調整できる ④自分の強みの理解と活用法が分かる ⑤出来事への正しい認知と行動が選べる ⑥ストレス耐性を高められる ⑦心の回復力を養うことができる ⑧自他への思いやりの効能を理解し 実践できるようになる						
	3～4		ウェルビーイング（良い状態を保つヒント）														
	5～6		強みを知り活かす方法（VIA-IS診断）														
	7～10		内的コントロール心理学①（欲求と願望）														
	11～14		内的コントロール心理学②（行動のしくみを知る）														
	15～16		怒り感情の取り扱い（怒りの仕組み）														
	17～18		怒り感情の取り扱い（怒りへの対処法）														
	19～22		ストレスマネジメント														
	23～26		レジリエンス（心の回復力を養う）														
	27～28		コンパッション（自他への思いやり）														
	29～30		前期試験														
成績評価方法		出欠席（30％）、授業態度（30％）、提出物（20％）、試験結果（20％）															
使用テキスト／教材		・オリジナルテキスト ・「親切は脳に効く」デビッド・ハミルトン著															
関連科目																	
その他																	

2025 年度

授業科目名		海外生活・文化研修															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		山梨千恵子・鍋田洋子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実習		・講義		2		通年		必修		60		2					
授業目的 到達目標		ボランティア・就業体験を含む海外留学を通して、語学のブラッシュアップと共に異文化コミュニケーション力を身に付けることを目標とします。英語でのプレゼンテーションを含む事前学習と帰国後は発表会を行います。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		○		反転授業				調査授業		○		フィールドワーク		○		
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ				
	プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～4		2年生による留学発表会聴講								① 留学の目的を知る・マインドセット ② 留学先について調査、留学国の文化を知る ③ 自己と日本の文化の紹介についてプレゼン発表ができる ④ 海外の治安などについて、自分を守る方法を知る ⑤ 留学先についての小冊子を作成する ⑥ 留学するに当たり最終的に知っておくべき事を知る ⑦ 異文化の中でも自分の意思表示が出来、相手も受け入れる姿勢を作る ⑧ 労働体験・ホームステイを通し、現地の生活習慣や文化、ものの考え方を学ぶ ⑨ 留学中に現地語で毎日その日の出来事について、日本語で気づきや学びについて課題を出す ⑩ 留学の成果について、留学後にプレゼンが出来る						
	5～8		海外留学の目的・オリエンテーション														
	9～12		留学先概要について調査														
	13～16		留学先文化について調査														
	17～24		自己紹介・日本について紹介プレゼン準備														
	25～28		プレゼンテーション発表会														
	29～32		エアライン科との連携授業（チェックイン・機内）														
	33～52		留学冊子の作成 ①～⑥														
	53～56		ホームステイのケーススタディ														
	57～58		留学出発前最終確認事項の確認														
	59～60		留学課題提出・留学発表会準備														
成績評価方法		プレゼン発表（30％）・留学後の提出物（20％） 留学準備における提出物（40％）授業態度・出欠席（10％）															
使用テキスト／教材		講師作成プリント															
関連科目		比較文化研究Ⅱ															
その他		各自毎時間PCを持参すること。※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		ゲストサービスⅠ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		大石 麻美															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		2		通年		必修		60		2					
授業目的 到達目標		テーマパークを中心にした、ゲストの心理と期待とは何かを知り、必要な表現力を習得します。ホスピタリティの在り方についてケーススタディ・ロールプレイングから学びます。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク		○		
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○		
	プレゼンテーション		○		PBL		○		模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		授業説明・自己紹介・ゲストサービスとは								① テーマパークの歴史を系統立てて理解できる ② ゲストサービスの構成要素と優先順位を理解できる ③ 幅広い年齢のゲストへの基本的な対応ができる ④ ゲストのご要望を察し行動できる ⑤ 特別な一日の演出に対する発想ができる ⑥ サービスリカバリーを理解し行動できる ⑦ 幅広い語彙力・表現力を習得できる						
	3～8		テーマパークの創業と歴史														
	9～14		キャストの職種理解														
	15～20		キャストの行動指針														
	21～26		キャストの育成														
	27～32		「テーマパーク」と「遊園地」の違い														
	33～38		テーマパークの職種														
	39～44		マジカルモーメントとは何か														
	45～50		サービスリカバリーとは何か														
	51～56		冬季研修準備														
	57～60		総括														
成績評価方法		出欠席（30％）授業態度（20％）提出課題（30％）定期試験結果（20％）															
使用テキスト／教材		・オリジナルテキスト ・「あなたに幸せの魔法をかけるディズニーランドの言葉」															
関連科目		ゲストサービスⅡ															
その他		・各自毎時間PCを持参する事。※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		表現技法基礎															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		太田 玲子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技		・ 講義		2		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		TP0に応じた幅広い表現力の習得を目的とします。様々な台本やオリジナル原稿を使用し、発声の基本から正確に伝わる表情のある心地よい声、話し方、伝え方に磨きをかけていきます。フリーアナウンサーを目指しキャリアに伴った接遇マナーを音声表現技術向上でバックアップしていきます。															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		オリエンテーション 表現するとは 音声表現入門								① 自分の声を客観的に分析できる。						
	3～6		基本発声練習・短文								② 正しいプロの発声法が身につく						
	7～10		基本発声練習・商品PR1								③ 言葉に感情を乗せて表現する事ができる						
	11～14		基本発声練習								④ アナウンステクニックが身につく						
	15～16		前期試験								⑤ 人前で話す事がこわくなる						
	17～18		課題見つけ 基本発声練習 館内アナウンス初級								⑥ 文章を瞬時にわかりやすく伝える事ができる						
	19～22		基本発声練習・館内アナウンス応用								⑦ TP0に応じた伝え方、話し方ができる						
	23～26		基本発声練習・中文原稿入門								⑧ 幅広い表現力を身につける						
	27～28		基本発声練習 試験準備														
	29～30		後期試験														
成績評価方法		本試験(50%) 出席(20%) 日頃の取り組み(30%)															
使用テキスト／教材		配布プリント															
関連科目		表現技法応用															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である															

シラバス（授業概要） 2025 年度

シラバス（授業概要）	2025 年度
------------	---------

授業科目名		ユニバーサルランゲージ I																			
学科・コース		国際交流科																			
担当教員		ANNE CHRISTINE GALLARDO																			
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位									
演習		・ 講義		2		通年		必修		60		2									
授業目的 到達目標		全てのお客様にご満足いただくために、幅広いおもてなしの現場で求められる接客英会話を学びます。様々な場面を取り上げロールプレイングを行うことで職業への理解も深めます。																			
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド							
アクティブ ラーニング		事前学習型授業						反転授業						調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート						ペアワーク						グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション						PBL						模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略										わかる目標・できる目標									
	1～4	Course Introduction										① Provide recommendations in English ② Handle Tour Reservations ③ Assist at Check-In using English ④ Deal with customer complaints in English ⑤ Answer tour questions in English									
	5～8	Recommending a Tour																			
	9～12	Taking a Tour Booking																			
	13～16	Escorting a Tour																			
	17～20	Welcoming International Tourists																			
	21～24	Taking an Airline Reservation																			
	25～28	Giving Flight Information																			
	29～32	Helping Passenger Check-in																			
	33～36	Working at the Boarding Gate																			
	37～40	Offering In-flight Services																			
	41～44	Taking Room Reservations																			
	45～48	Welcoming Guests																			
	49～52	Dealing with Complaints																			
	53～56	Sending Guests Off																			
57～60	Review																				
成績評価方法		出欠席（30％）授業態度（15％）提出課題（15％）定期試験結果（40％）																			
使用テキスト ／教材		English for Tourism Professionals Student Book																			
関連科目		ユニバーサルランゲージⅡ、異文化接遇																			
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。																			

2025 年度

授業科目名		異文化理解																
学科・コース		国際交流科																
担当教員		山梨千恵子																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
講義		・ 演習		2		通年		必修		30		2						
授業目的 到達目標		グローバル社会において必要な「異文化理解力」を身に付けるための素地を獲得することを目標とする。世界各国の文化を比較しながら、時候の文化、世界情勢、国際問題についての理解を深めます。																
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド				
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク				
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ				
		プレゼンテーション		○		PBL		○		模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～2		グローバル社会の基礎知識、「異文化理解力」とは								① 異文化理解の知識 ② ローコンテキスト文化・ハイコンテキスト文化の知識 ③ 移民についてのトピックの理解 ④ 世界三大宗教・世界の宗教についての基礎知識 ⑤ 世界の食文化の基礎知識 ⑥ 言語と文化についての基礎知識 ⑦ 世界遺産・文化財についての基礎知識 ⑧ 世界の美術・芸術についての基礎知識 ⑨ 世界経済の基礎知識 ⑩ 比較文化研究のプレゼンテーションができる							
	3～4		ハイコンテキスト文化・ローコンテキスト文化															
	5～6		文化の影響と社会制度・移民問題と多文化主義															
	7～10		世界の宗教・多文化共生社会															
	11～14		食文化・食習慣・風土・歴史															
	15～16		プレゼンテーション①															
	17～18		言語と文化・多種多様な非言語コミュニケーション															
	19～20		世界遺産・日本の文化遺産/文化財															
	21～22		美術と芸術															
	23～26		世界の経済と情報社会・デジタル化で変革する社会															
	27～30		プレゼンテーション②															
成績評価方法		出席率(50%)、授業レポート(30%)、プレゼンテーション(20%)																
使用テキスト／教材		授業内で配布する資料																
関連科目		異文化接遇、ユニバーサルランゲージⅡ																
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。																

2025 年度

授業科目名		コンシェルジュⅠ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		諏訪 好枝															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		2		通年		必修		60		2					
授業目的 到達目標		接客・接遇を基本にあらゆる分野においても役に立ち通用する社会人として身につけておきたいスキルを学び、マニュアルにとらわれず自分自身で考える思考と行動力を目指します。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク		○		
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○		
	プレゼンテーション		○		PBL		○		模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		授業説明・自己紹介・コンシェルジュとは								① マナーの必要性、意味を理解し 日常生活に活かしていく ②業種・分野に限定されない 社会人として必要な基本を会得する ③コミュニケーションスキルを養う ④自身で考える思考力と発想を伸ばす ⑤定型文に頼らない文章スキルを磨く ⑥語彙を増やす完成を磨く						
	3～6		基本マナー・挨拶・言葉遣い・社会常識とその意味合い														
	7～12		話し方・聴き方・会話のスキル・語彙について														
	13～20		言葉遣い・好ましい言い方・表現の言い換え														
	21～28		ビジネスマナー・ビジネスメール・報告書作成														
	29～30		前期試験														
	31～38		スピーチ・発表・発言・提案のスキルとは														
	39～46		電話応対について														
	47～52		プラスワントーク・臨機応変な対応力														
	53～58		まとめ・復習														
	59～60		後期試験（発表会）														
成績評価方法		出欠席（30％） 授業態度・発言（60％） 提出課題（5％） 試験結果（5％）															
使用テキスト／教材		・オリジナルテキスト ・「本物の接客」 ・講師作成レジュメ															
関連科目		コンシェルジュⅡ															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		茶道・着付け																
学科・コース		国際交流科																
担当教員		見原 文子・中村 由美																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
実技				2		通年		必修		30		1						
授業目的 到達目標		日本の民族衣装である着物と茶道の知識を通じ、日本の伝統的な立ち居振る舞い身に付けることを目標とします。ビジネスシーンにも活かすことができるよう反復練習を行います。																
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク				
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ				
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～2		着物の基礎知識 歴史と種類 名称と畳み方								① 着物の種類を知ることができる ② 着物が自分で着れるようになる ③ 着物や帯を畳めるようになる ④ TP0に合わせ着物を選べるようになる ⑤ 美しい所作を身に付けることができる ⑥ 紐や帯の結び方が習得できる ⑦ お客様に気持ちの良い時間を提供できる ⑧ 亭主がお点前をしやすい気配りができる ⑨ 菓子や道具から季節を味わうことができる ⑩ お抹茶を点てることができる							
	3～4		浴衣の着付けと半幅帯の文庫結び															
	5～6		浴衣の着付けと半幅帯の文庫結び・帯のアレンジ															
	7～8		着物の着付け 長襦袢と着物の着方															
	9～10		着物の着付けと袋帯の結び方①															
	11～12		着物の着付けと袋帯の結び方②															
	13～14		着物を着た時の歩き方と座り方 和室のマナー															
	15～16		着物の選び方と買い方、着た後のお手入れ法															
	17～18		茶の湯の歴史 お点前の拝見															
	19～20		茶道具説明 菓子の取り方															
	21～22		畳の上での歩き方 お辞儀の仕方 準備と片付け															
	23～24		割り稽古（袱紗の扱い 茶筌通し）															
	25～26		お点前（客の作法、千家十職について）															
27～28		お点前総演習																
29～30		茶会																
成績評価方法		出欠席(25%)、授業態度(25%)、実技の習得度(50%)を踏まえ評価いたします。																
使用テキスト／教材		オリジナルテキスト・講師配布プリント																
関連科目		華道・総合ブランド理解																
その他		髪は纏め、シンプルな服装が望ましい。※実務経験のある教員が担当する科目である。																

シラバス（授業概要）	2025 年度
------------	---------

シラバス（授業概要）	2025 年度
------------	---------

授業科目名		EQ開発														
学科・コース		国際交流科														
担当教員		松永 祐子														
授業形態(主)		授業形態			履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
演習		・講義			2		通年		必修		30		1			
授業目的 到達目標		社会人として必要となる自己調整力をさまざまな角度から学んでいきます。理論を理解するだけでなく、日常で実践することにより、自分らしい幸せな生き方・働き方を見つけていくことを目指します。自己診断ツールを活用した授業も行っていきます。														
授業手法		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティブ ラーニング		事前学習型授業					反転授業				調査授業				フィールドワーク	
		双方向アンケート					ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ	
		プレゼンテーション					PBL				模擬授業				その他	
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標					
	1～2		授業説明・自己紹介								①自己調整力を高めることができる ②他者との関係づくりのコツが分かる ③自分の感情を自分で調整できる ④自分の強みの理解と活用法が分かる ⑤出来事への正しい認知と行動が選べる ⑥ストレス耐性を高められる ⑦心の回復力を養うことができる ⑧自他への思いやりの効能を理解し 実践できるようになる					
	3～4		ウェルビーイング（良い状態を保つヒント）													
	5～6		強みを知り活かす方法（VIA-IS診断）													
	7～10		内的コントロール心理学①（欲求と願望）													
	11～14		内的コントロール心理学②（行動のしくみを知る）													
	15～16		怒り感情の取り扱い（怒りの仕組み）													
	17～18		怒り感情の取り扱い（怒りへの対処法）													
	19～22		ストレスマネジメント													
	23～26		レジリエンス（心の回復力を養う）													
	27～28		コンパッション（自他への思いやり）													
	29～30		前期試験													
成績評価方法		出欠席（30％）、授業態度（30％）、提出物（20％）、試験結果（20％）														
使用テキスト ／教材		・オリジナルテキスト ・「親切は脳に効く」デビッド・ハミルトン著														
関連科目																
その他																

2025 年度

授業科目名		ホスピタリティマインド																
学科・コース		国際交流科																
担当教員		千葉 麻里																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
講義		・演習		2		通年		必修		60		4						
授業目的 到達目標		ホスピタリティマインド概論の基本的な知識と判断力を検定試験を通じ習得することを目標としています。毎授業小テストを実施し、理解を深め、ホスピタリティマインドの定着を図ります。																
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティブ ラーニング	事前学習型授業					反転授業					調査授業					フィールドワーク		
	双方向アンケート					ペアワーク			○		グループワーク			○		ロールプレイ		
	プレゼンテーション			○		PBL			○		模擬授業					その他		
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～4		授業説明・ホスピタリティとは								① 相手に寄り添った行動ができる ② 観察力を磨き、要望を察し行動することができる ③ 柔軟な提案力の向上が期待できる ④ 共感力の向上が期待できる ⑤ 効果的な伝え方・表現力の習得 ⑥ 傾聴力を養うことができる ⑦ 情報集約スキルの習得 ⑧ 語彙力の向上が期待できる ⑨ 自分自身を客観的に評価することができる ⑩ 自信をもって人前に立ち発言することができる							
	5～8		これからの社会とホスピタリティ															
	9～12		ホスピタリティ・マインドの育て方															
	13～16		ホスピタリティ・マナー															
	17～20		ホスピタリティ・コミュニケーション															
	21～22		前期試験															
	23～30		復習・ビジネスにおけるホスピタリティ															
	31～34		検定対策（模擬試験）															
	35～36		授業説明・プレゼンテーションの基本知識															
	37～40		自己紹介のプレゼンテーション ～お客様にファンになっていただくために～															
	41～44		S-AIRの体験入学時の学校紹介 ～コンシェルジュ自身が商品であること～															
	45～50		ポスターワーク ～宣伝内容をいかに魅力的に伝えるか～															
	51～54		良いサービス・悪いサービスとあなたが目指すおもてなし															
55～60		ミニセミナー開催																
成績評価方法		〔前期〕授業態度（15%） 出席率（15%） 小テスト（20%） 前期試験（50%） 〔後期〕授業態度（15%） 出席率（15%） 模擬・検定結果（40%） 発表（30%）																
使用テキスト／教材		「社会人ホスピタリティ 要点チェック&確認問題」・オリジナルテキスト																
関連科目		総合ブランド理解																
その他		【後期】各自毎時間PC持参すること。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。																

2025 年度

授業科目名		カラーマーケティング															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		千葉 麻里															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義		・ 演習		2		通年		必修		30		2					
授業目的 到達目標		色彩の基礎をはじめとする、人に与える色の印象を利用したマーケティングについて学ぶことを目標としています。色の役割に着目し、見識を広げ、様々な業種で実務に活かせることができるよう、ペアワークやグループワークなどを通じて演習を行い学びを深めます。															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク		○	
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション		○		PBL		○		模擬授業				その他			
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		授業説明・カラーマーケティングとは								① 色彩の基礎を理解することができる ② 色のイメージを言語化することができる ③ 色彩心理の特性を理解し、考察できる ④ 色彩の調和とバランスを理解し、提案できる ⑤ シチュエーションに応じた色彩提案ができる ⑥ 色彩感覚の向上が期待できる						
	3～4		色の基礎知識・色を与える影響と役割														
	5～10		色のイメージと心理効果														
	11～14		カラーコミュニケーション・配色テクニック														
	15～16		季節と色														
	17～18		食と色														
	19～20		前期試験														
	21～22		カラーブランディング・コーポレートカラー														
	23～24		店舗カラー														
	25～26		キャラクターカラー														
	27～28		カラーコラボレーション														
	29～30		後期試験														
成績評価方法		出席率（20％）・授業態度（30％）・課題提出（20％）・定期試験結果（30％）															
使用テキスト ／教材		オリジナルテキスト ・新配色カード158 a															
関連科目		リテールマーケティング															
その他		色鉛筆・はさみ・のり・PC ※実務経験のある教員が担当する科目である。															